



# **AR-*Mini***

**COMMUNICATIONS RECEIVER  
100 kHz – 1299.995 MHz**



**取扱説明書**



# 目次

安全上のご注意.....	5	リミットサーチを行うには.....	35
絵表示について.....	5	サーチの方法を変更するには.....	36
はじめに.....	8	サーチバンドメモリを変更するには.....	36
梱包品.....	8	リミットリンクサーチを行うには.....	37
各部の名称と動作.....	9	メモリについて.....	38
LCD (液晶ディスプレイ) について.....	12	表示されている周波数をメモリするには.....	39
お使いになる前に.....	13	メモリ呼び出すには.....	39
アンテナを接続するには.....	13	表示されているメモリの周波数のまま	
ベルトクリップを取り付けるには.....	14	VFO 状態に戻るには.....	40
ハンドストラップを取り付けるには.....	14	メモリを消す.....	40
電池を入れるには.....	15	メモリバンク内のメモリを全て消す.....	41
付属ニッケル水素電池を充電するには.....	16	メモリに名前を付ける.....	42
基本的な使い方.....	18	メモリをスキャンする.....	42
簡単ガイド：スキャンの設定.....	20	特定のメモリのみスキャンを行わないように	
スキャンしたい周波数をメモリする.....	20	するには (スキップスキャン).....	43
メモリバンクをスキャンするには.....	20	メモリバンクをスキャンするには.....	43
オプション品一覧.....	21	メモリバンクリンクを行うには.....	44
DC アダプター DC-mini について.....	21	放送局の受信を行う.....	45
クローンケーブル CO-mini について.....	22	プリセットを使う.....	45
プログラミングケーブル		トーンスケルチを使うには.....	46
PC-mini について.....	22	トーン周波数をサーチするには.....	46
準備.....	22	逆トーンスケルチを使うには.....	47
PC-mini の接続.....	23	DCS を使うには.....	48
AR-mini との接続.....	23	空線信号を消すには (鉄道無線の受信) ...	48
PC-mini プログラムの起動.....	24	秘話通話を聞く.....	49
使い方の基本.....	25	信号の減衰する (アッテネーター).....	50
電源を入れるには.....	25	キーを使えないようにする (キーロック) ...	50
音量を調整するには.....	26	盗聴器用の周波数をスキャンする.....	51
周波数を合わせるには.....	27	盗聴器発見機能を使う.....	51
スケルチを調整するには.....	28	システムのみ初期状態にする	
受信モードを変更するには.....	29	(システムリセット).....	52
モニター (スケルチ解除).....	29	全てを初期状態にする (オールリセット) ...	52
本機の設定について.....	30	設定を変更するには.....	53
もっと使いこなすには.....	31	周波数ステップを変更する.....	53
希望する周波数を見つけるには.....	31	ファストステップを変更する.....	53
プライオリティワッチを行うには.....	31	照明の点灯時間を変更する.....	54
2VFO ワッチを行うには.....	32	タイマー設定する.....	54
2VFO ワッチ受信用メモリを使って		S メーターの感度を変更する.....	55
2VFO ワッチを行うには.....	33	S メーターブザーを設定する.....	56
2VFO ワッチ受信用メモリを		カーオケ機能を OFF にする.....	56
変更するには.....	33	スキャン・サーチの再開時間を設定する...57	
サーチを行うには.....	34	サーチ方法を設定する.....	57
特定の周波数のみサーチを行わないように		スキャン方法を設定する.....	58
するには (スキップサーチ).....	34	リミットリンクサーチを設定する.....	58

# 目次

バンクリンクスキャンをするためのメモリを 設定する.....	59
リミットサーチの周波数を確認する.....	60
メモリバンク内のメモリを消去する.....	60
VFO スキップメモリを消去する.....	61
メモリのスキップマークを消去する.....	62
スキャン・ミュート中のミュートを 解除する.....	62
内蔵バーアンテナを使う.....	63
イヤホンアンテナを使う.....	63
FM モード時に音声を自動的に 大きくする.....	64
トーン周波数を設定する.....	64
逆トーン周波数を設定する.....	65
空線トーン周波数を設定する.....	65
秘話通話のキャリア周波数を設定する.....	66
表示の内容を自動的に変更する.....	66
DCS コードを設定する.....	67
DCS コードの位相を設定する.....	67
ビーブ音を消去する.....	68
バッテリーセーブ時間を設定する.....	68
バッテリーの電圧を表示する.....	69
ニッケル水素電池を充電する.....	69
リピータのシフトを設定する.....	70
周波数ステップを補正する.....	71
内蔵マイクロプロセッサのクロック周波数を シフトする.....	72
<b>ご参考に.....</b>	<b>73</b>
ラジオ用プリセット周波数リスト.....	73
盗聴器スキャン用周波数リスト.....	73
プリセットメモリ周波数.....	74
鉄道無線周波数.....	74
短波放送局.....	75
トーン周波数 (CTCSS).....	76
DCS コード.....	76
サーチバンドメモリリスト.....	77
2VFO ワッチメモリ周波数リスト.....	77
設定番号リスト.....	78
故障とお考えになる前に.....	81
仕様.....	82

# 安全上のご注意

ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、必要に応じていつでも見られる所に必ず保管してください。

## 絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。絵表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



### 警告

この表示の欄は「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害のみの発生が想定される」内容です。

## 絵表示の例



感電注意

△記号は注意（危険・警告）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は、感電注意）が描かれています。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は、分解禁止）が描かれています。



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。左図の場合は、「ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。



### 警告



禁止

- 本機の内部に金属や燃えやすいものなどを差し込んだりしないでください。火災・故障の原因となります。
- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



### 警告



電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。ACアダプターをお使いの際には、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、電池を取り出してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などがいった場合は、ACアダプターをお使いの際には、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、また電池を取り出してから販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、ACアダプターをお使いの際にはACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、また電池を取り出してから販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落したり、破損した場合は、ACアダプターをお使いの際には必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、また電池を取り出してから販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。



分解禁止

- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



分解禁止

- 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因となります。



注意

- 使用済みの電池は火中へ投げ入れしないでください。爆発して火災・やけどなどの原因となります。
- 電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。

# 安全上のご注意

## 警告



禁止

● 交流電源 100V 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● タコ足配線はしないでください。火災・過熱の原因となります。



禁止

● 当社指定の AC アダプター以外を使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



禁止

● AC アダプターの DC 出力コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。

● AC アダプターの DC 出力コードが傷んだら販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



禁止

● 充電端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。

● 充電端子に水滴のついたまま充電しないでください。火災・故障の原因となります。

● 近くに雷が発生したときは、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。雷によっては、火災・感電・故障の原因となります。



禁止

● この機器を、他の機器の電源として使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードがこの機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



濡れた手  
禁止

● 濡れた手で AC アダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

## 注意



電源プラグ  
をコンセント  
から抜く

● 旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

● 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。

● 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。

● 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。

● AC アダプターの電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグ  
をコンセント  
から抜く

● AC アダプターの電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷ついて火災・感電の原因となることがあります。

● 本機の表面をベンジンやシンナーなどで拭いたり、近くで殺虫剤を散布することは避けてください。本機の表面を痛める原因となります。お手入れの際は、必ず柔らかい布でからぶきしてください。



禁止

● この機器が近くのテレビ・電子機器・医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。

● 移動させる場合は、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

## 安全上のご注意

### お願い

- 充電開始から 20 時間が経過したら AC アダプターは外してください。そのまま充電を続けると過充電になる恐れがあります。
- 充電中、充電完了直後は、本機および AC アダプターが若干熱くなりますが、異常ではありません。
- 急速充電が完了したニッケル水素電池は、繰り返し急速充電しないでください。電池が過充電になり、ニッケル水素電池の性能が劣化したり、寿命が短くなることがあります。
- 電池を初めてご使用になるとき、または長期間ご使用にならなかったときは、必ず充電してからご使用ください。
- 長期間ご使用にならなかったニッケル水素電池を充電すると、十分に充電される前に充電が完了し、充電不足になることがあります。これは、ニッケル水素電池が長期保存のため、充電しにくい状態になっているためです。このようなときは、「充電」と「放電」（電池を使い切るまで使用する）を 2～3 回繰り返すことにより、正常に充電できるようになります。
- ニッケル水素電池の充電は、電池を使い切ってから行ってください。電池を使い切らないで充電すると、十分に充電を行っても、すぐに電池が切れることがあります。これを防ぐためには、最低でも月に 1 回、電池を使い切ってから充電することをおすすめします。
- ニッケル水素電池の寿命は、正常なご使用で約 1 年です。正常なご使用で十分に充電しても電池が早く切れるときは、電池の寿命と考えられます。このようなときは、早めに新しい電池とお取り替えください。
- ニッケル水素電池および充電器の端子が汚れていると、正常に充電できないことがあります。端子はいつもきれいにしてお使いください。汚れているときは、乾いた布で端子を拭いてください。

# はじめに

## 梱包品

お買い上げになって、初めてパッケージを開けられた際には、以下のものが梱包されていることをご確認ください。

万が一、不足しているものがありましたら、お買い上げになった販売店または弊社サービスセンターにお問い合わせください。

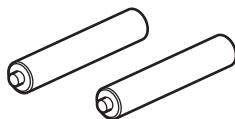
- AR-mini レシーバー



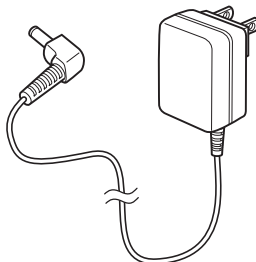
- アンテナ



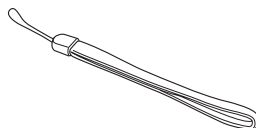
- ニッケル水素電池



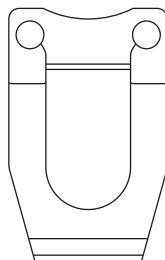
- AC アダプター (AA-mini)



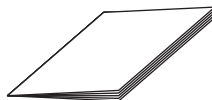
- ハンドストラップ



- ベルトクリップ (専用ネジ付き)



- 取扱説明書 (本書)



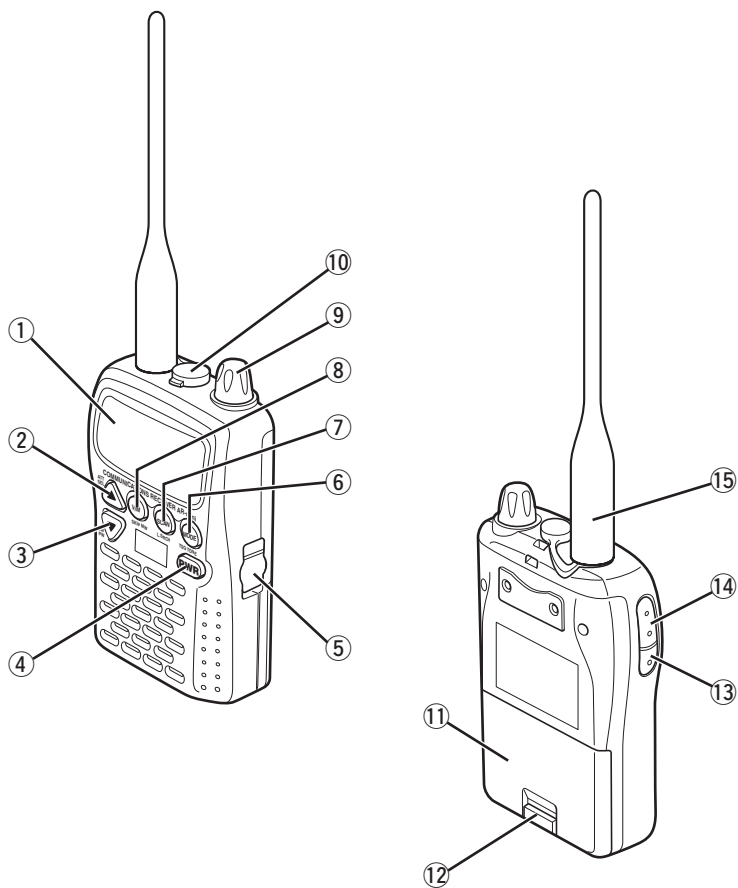
- 保証書





# はじめに

## 各部の名称と動作



# はじめに

## ① 表示部

### ② ▲ (アップ) キー

- このキーを押して、周波数をアップさせます。
- このキーを押し続けて、アッテネーターを設定します。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、VFO、ラジオ、プリセットを切り換えます。
- このキーと FUNC キーを長押しして、プライオリティースキャンのためのチャンネルを保存します。

### ③ ▼ (ダウン) キー

- このキーを押して、周波数をダウンさせます。
- このキーを押し続けて、2VFO ワッチを開始します。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、プライオリティースキャンを開始します。
- このキーと FUNC キーを長押しして、2VFO ワッチのためのチャンネルを保存します。

### ④ PWR キー

- このキーを長押しして、電源のオン・オフを行います。

### ⑤ 外部 DC ジャック接続端子

- 電源の供給や充電の為に、外部 DC ジャック接続端子のカバーを外して、AA-mini または DC-mini の DC 出力プラグを接続します。

### ⑥ MODE キー

- このキーを押して、FM、ワイド FM、AM、オートモードの切り換えを行います。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、トーンの種類を切り換えます。

### ⑦ SCAN キー

- このキーを押して、VFO 状態時はサーチを開始し、メモリ状態時はスキャンを開始します。
- このキーを長押しして、盗聴器の周波数をサーチします。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、リミットサーチの周波数を設定します。
- FUNC キーを押しながら、このキーを長押しして、盗聴器発見機能に切り換えます。

### ⑧ V/M キー

- このキーを押して、VFO 状態とメモリ状態を切り換えます。
- このキーを長押しして、サーチやスキャン時にスキップする周波数やメモリチャンネルを設定します。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、希望の周波数をメモリします。その後で、メモリには名前を付けることができます。
- このキーと FUNC キーを長押しして、メモリチャンネルを消去します。

### ⑨ ダイアルノブ

- このノブを回して、周波数やメモリチャンネルを変更します。
- このノブを押して、音量とスケルチ設定の切り換えを行います。
- FUNC キーを押しながら、このノブを回すと周波数を大きく変更できます。
- このキーと FUNC キーを長押しして、設定を変更します。

### ⑩ イヤホン接続端子

- イヤホン接続端子のカバーを外し、ここにイヤホンを接続します。

### ⑪ 電池ケース

- 電池ケース蓋を外し、ここに付属のニッケル水素電池または単三形電池を入れます。

## はじめに

### ⑫ 電池ケースロック

- 電池を交換するときに、このロックを外し、電池ケース蓋を外します。

### ⑬ MONI キー

- このキーを押している間、スケルチを開いて、音声をモニターします。
- FUNC キーを押しながら、このキーを押して、キーロックを行います。  
キーロック中も PWR、FUNC、MONI キーは使用できます。

### ⑭ FUNC キー

- このキーと他のキーやダイヤルノブを回して、機能を切り換えます。

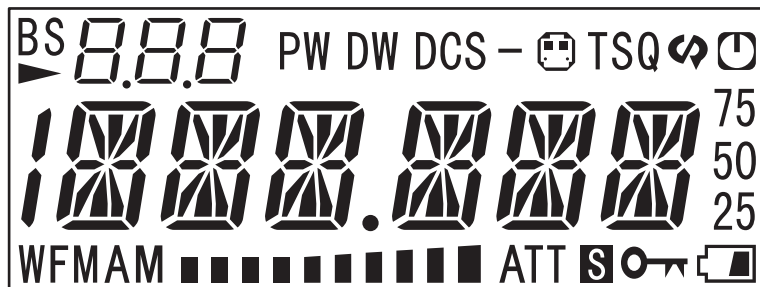
### ⑮ アンテナコネクター

- 付属のアンテナを接続します。

# はじめに

## LCD (液晶ディスプレイ) について

メイン表示:周波数、メモリ名、セッティング番号など本機の状態に関することが表示されます。

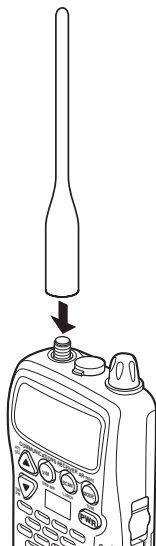


- |              |  |      |                                 |
|--------------|--|------|---------------------------------|
| 1:           | VFO 状態の周波数が 1000MHz 以上のときに表示されます。      | PW:  | プライオリティワッチを行っているときに表示されます。      |
| .            | 少数点を表示します。                             | DW:  | 2VFO ワッチを行っているときに表示されます。        |
| 75 50 25:    | 周波数ステップが 6.25Hz および 12.5Hz のときに表示されます。 | DCS: | デジタルコードスケルチを設定しているときに表示されます。    |
| WFM, FM, AM: | ワイド FM、FM、AM モードが表示されます。               | —:   | リピーター周波数をマイナスシフトするときに表示されず。     |
| ■■■■■■■■:    | 受信した信号の強度が表示されます。                      | TSQ: | トーンスケルチを設定しているときに表示されます。        |
| ATT:         | アッテネーターが設定されているときに表示されます。              | 🚂:   | 鉄道無線を受信するときに表示されます。             |
| 🔋:           | バッテリーセーブが設定されているときに表示されます。             | 🔒:   | 秘話設定をしているときに表示されます。             |
| 🔑:           | キーロックが設定されているときに表示されます。                | 🔌:   | 電源オフ時間またはアラームが設定されているときに表示されます。 |
| 🔋:           | バッテリーの容量が少なくなったときに表示されます。              | ▶:   | サーチ時のスキップ周波数が設定されているときに表示されます。  |
| B:           | ビジーサーチのときに表示されます。                      |      |                                 |
| S:           | 設定を変更するためのセッティング番号と同時に表示されます。          |      |                                 |

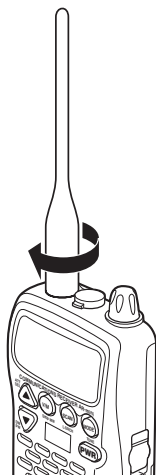
# お使いになる前に

## アンテナを接続するには

1 アンテナ接続端子にアンテナをしっかりと差し込みます。

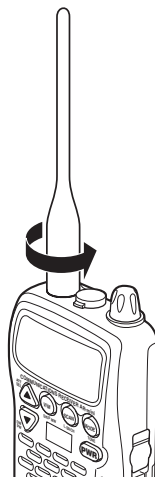


2 時計方向にアンテナを回します。



3 アンテナが本機に固定されたことを確認します。

4 アンテナを取り外すときは、アンテナを反時計方向に回します。



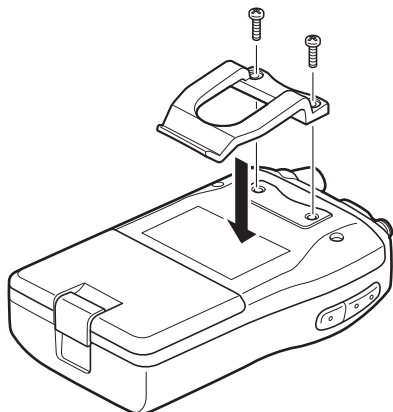
**⚠ 注意:**

本機のアンテナ接続端子は SMA タイプです。これ以外のアンテナは接続しないでください。故障の原因となります。

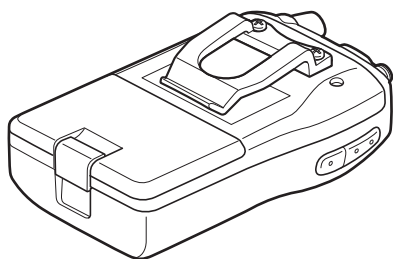
## お使いになる前に

### ベルトクリップを取り付けるには

- 1 付属ネジをベルトクリップのネジ穴を通して、本機に挿します。



- 2 ネジを固定します。

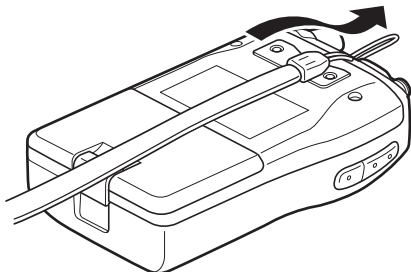


#### △ 注意:

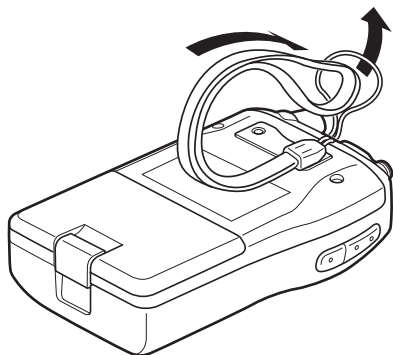
ベルトクリップを取り付けるときは、付属のネジ以外は使わないでください。付属以外のネジを使われますと、本機の内部を破損したり、ベルトクリップが外れて本機を脱落させることがあります。

### ハンドストラップを取り付けるには

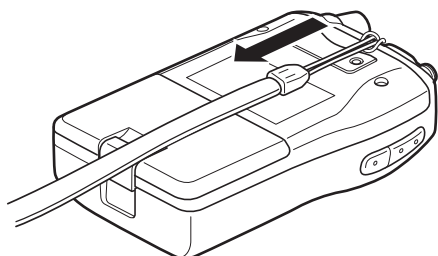
- 1 ハンドストラップの端をストラップホルダーに通します。



- 2 もう一方の端をストラップホルダーに通した端の中を通します。



- 3 ハンドストラップをしっかりと結び付けます。



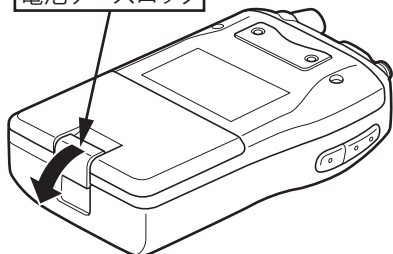
# お使いになる前に

## 電池を入れるには

付属のニッケル水素電池または単三形電池を入れます。

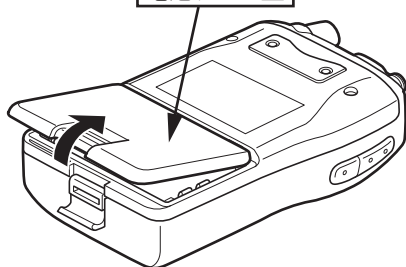
- 1 電池ケースロックを外します。

電池ケースロック



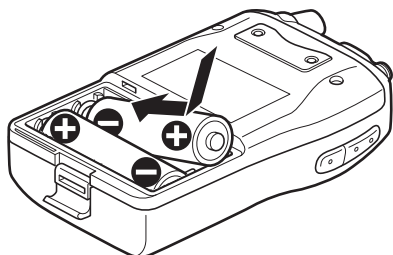
- 2 電池ケース蓋を外します。

電池ケース蓋



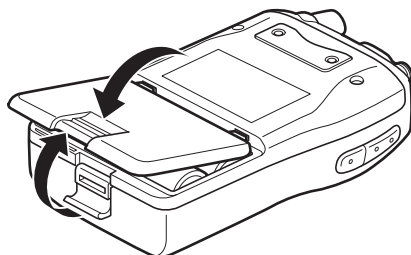
- 3 電池の+（プラス）極と-（マイナス）極を確認します。

- 4 極性に合わせて電池を正しく入れてください。



- 5 電池ケース蓋を乗せます。

- 6 電池ケースロックを閉めます。



### △ 注意：

- 古い電池と新しい電池を一緒に使わないでください。
- 種類の違う電池を一緒に使わないでください。
- 希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になったニッケル水素電池は廃棄せず、リサイクル協力店へご持参いただくか、電池を分別している市区町村では、その規則に従って処理してください。



Ni-MH

# お使いになる前に

## 付属ニッケル水素電池を充電するには

### ⚠ 警告:

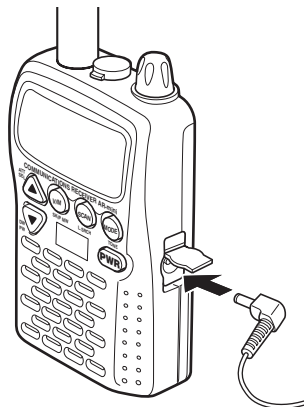
付属のニッケル水素電池と同じ仕様の電池以外は充電しないでください。付属のニッケル水素電池と違う仕様の電池を充電すると発火や爆発のすることがあります。

本機をお買い上げになったときには、付属のニッケル水素電池は充電されていません。付属のニッケル水素電池は AC アダプター AA-mini を使って充電してください。

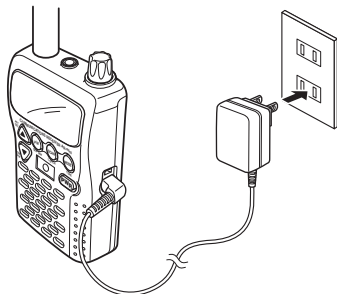
- 1 本機の電源を切ります。
- 2 本機内に付属のニッケル水素電池が入っていることを確認します。
- 3 外部 DC ジャック接続端子のカバーを外します。



- 4 AC アダプターの DC プラグを本機右側面に接続します。



- 5 AC アダプターの AC プラグをコンセント (交流 100V) に差し込みます。



- 6 PWR キーを押して、本機の電源を入れます。
- 7 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 8 ダイヤルノブを回して、設定番号を 30 に合わせます。
- 9 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回して、[CHAG] を設定します。
  - ( [CHAG] ) が点滅します。
- 10 ダイヤルノブをして、VFO 状態に戻ります。



## お使いになる前に

- 11** 充電開始から 20 時間経過したら、AC アダプターをコンセントから外し、本機から DC プラグを外してください。

**メモ：**

- 充電設定は、本機から AC アダプターが外されたときには解除されます。
- 充電設定は、24 時間経過後に自動で解除されます。再度充電を行うときには、手順 7 から始めてください。
- 本機の電源が切られても充電は、引き続き行われます。

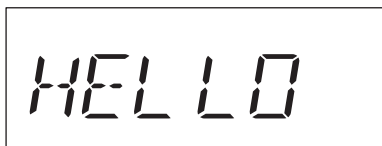
# お使いになる前に

## 基本的な使い方

- 1 PWR キーを 2 秒以上押し、本機の電源を入れます。



- 2 VFO 状態になることを確認します。



(VFO)

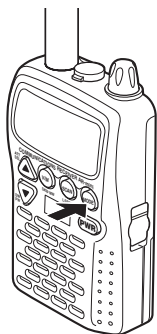
- \* 初期状態は、10MHz(AM モード) です。  
● メモリが表示されたら、V/M キーを押して VFO 状態にしてください。

- 3 ダイヤルノブを回して、希望の周波数に合わせます。

- FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回すと、周波数は大きく (1MHz ステップ) 変わります。



- 4 受信モードを変更するには、希望の受信モードになるまで MODE キーを何回か押してください。



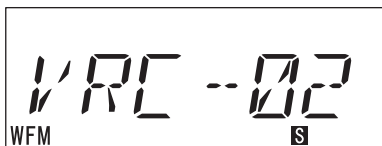
- MODE キーを押すたびに、受信モードは以下のように変わります。  
オート → FM → ワイド FM → AM → オート → ……

# お使いになる前に

## △ 注意:

本機の初期状態ではオートステップとオートモードが設定されています。受信する周波数帯に合わせて周波数を変えるステップと受信モードを変更します。オートステップとオートモードの設定を解除して、手動で設定を変更することもできます。

- 5 音量を調整するには、ダイヤルノブを1回押してから回します。

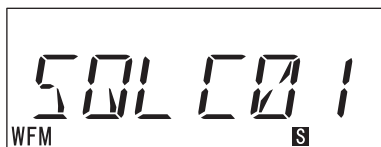


- 音量はダイヤルノブが回されると以下のように変化します。  
00 → 01 → (01) → (01) → 02 → (02) → (02) → 03 → (03) → (03) → 04 → (04) → (04) → 05 → ..... → 10

## メモ:

ダイヤルノブを回しても、2段階分は表示される数値は変わりませんが、実際の音量は変化しています。

- 6 スケルチを調整するには、再度ダイヤルノブを押してから回します。



- スケルチはダイヤルノブが回されると以下のように変化します。
- スケルチ増加 (時計方向)  
00 → 01 → (01) → 02 → (02) → 03 → (03) → 04 → (04) → 05 → (05) → 06 → 07 → 08 → 09 → 10
- スケルチ減少 (反時計方向)  
10 → 09 → 08 → 07 → 06 → 05 → (05) → 04 → (04) → 03 → (03) → 02 → (02) → 01 → (01) → 00

## メモ:

ダイヤルノブを回しても、表示される数値が変わらない値がありますが、実際のスケルチ設定は変化しています。

# お使いになる前に

## 簡単ガイド：スキヤンの設定

### スキヤンしたい周波数をメモリする

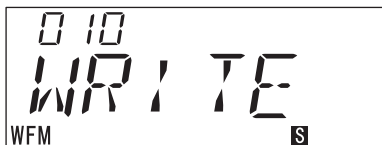
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、メモリに保存したい周波数に合わせます。



- 3 FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。
  - メモリバンク番号とメモリ番号が点滅します。
- 4 ▲または▼キーを押して、メモリバンク番号を変更します。



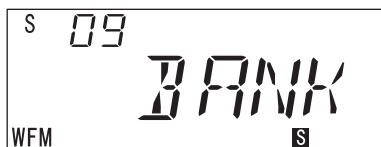
- 5 ダイヤルノブを回して、メモリ番号を変更します。
  - メモリ番号を変更する必要が無いときは、この手順は飛ばしてください。
- 6 メモリに保存するために、FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。



### メモリバンクをスキヤンするには

特定のメモリバンク内のメモリを使ってスキヤンをすることができます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を 09 に合わせます。
- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [BANK] を選択します。

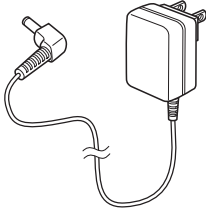


- 5 VFO 状態に戻るため、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 6 メモリ状態にするために、V/M キーを押します。
- 7 ▲または▼キーを押して、希望するメモリバンクにします。
- 8 スキヤンキーを押します。
  - メモリバンク内のメモリのスキヤンが始まります。
- 9 メモリバンクを変更するには、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。
- 10 メモリ状態に戻るには、V/M キーを押します。

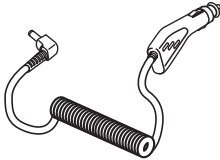
# お使いになる前に

## オプション品一覧

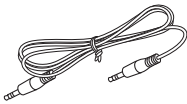
- AA-mini  
A プラグタイプ AC アダプター  
(DC6V、500mA、AC100 ~ 240V 用)



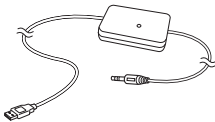
- DC-mini  
シガーライター式 DC ケーブル  
(DC6V、500mA、12/24V ソケット用)



- CO-mini  
データクロニング用ケーブル  
(AR-mini — AR-mini 接続用)

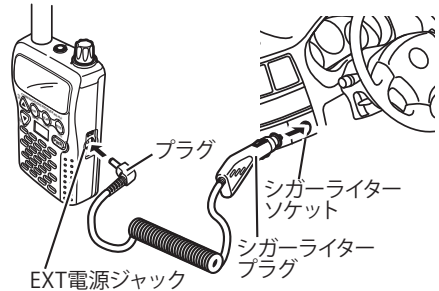


- PC-mini  
パソコン用ケーブル  
(USB のみ)



## DC アダプター DC-mini について

- 1 シガーライタープラグ部を車のシガーライターソケット (DC 12 または 24V) に挿入します。



- 2 本機の EXT 電源ジャックのキャップを外します。
- 3 EXT 電源ジャックに DC-mini のプラグを差し込みます。
- 4 付属の電池を充電する場合は、本機の設定が必要です。16 ページ「付属ニッケル水素電池を充電するには」の操作手順にしたがって操作してください。

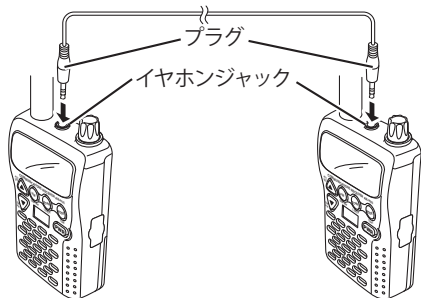
### ⚠ 注意:

- ケーブルを持ってプラグを引き抜かないでください。ケーブルが断線し、故障の原因になります。
- 濡れた手で絶対に DC-mini を扱わないでください。感電することがあり大変危険です。
- DC-mini を使用して本機を運用した場合、ノイズが混入することがありますが、故障ではありません。

# お使いになる前に

## クローンケーブル CO-mini について

### 1 AR-mini の電源を切ります。



### 2 AR-mini のイヤホンジャックのキャップを外し CO-mini のプラグをイヤホンジャックに差し込みます。

### 3 AR-mini の [FUNC] と▲キーを押しながら電源をオンにします。

- [RX-TX] が表示されます。

### 4 受信側の AR-mini の SCAN キーを押します。

- [R] が表示されます。

### 5 送信側の AR-mini の MODE キーを押します。

- [R] が表示されます。

### 6 クローンが成功したら [PASS] が表示されます。

- [NPASS] が表示されたら、クローンは失敗です。手順3から操作をやり直してください。

#### △ 注意：

- ケーブルを持ってプラグを引き抜かないでください。ケーブルが断線し、故障の原因になります。
- ケーブルを接続したり取り外す時は、本体の電源をオフにしてください。

## プログラミングケーブル PC-mini について

### 準備

#### ◆ 専用ソフトウェアのインストール

- ① インターネットを使い、当社のホームページのダウンロード画面にアクセスし、説明に従ってソフトウェアをダウンロードします。  
URL : <http://www.aorja.com/ar-mini-j/>
- ② ダウンロードしたファイルを実行しセットアップを実行します。

#### △ 警告：

このソフトウェアは無償にて提供しておりますが、不法なコピーは行わないでください。

#### ◆ USB ドライバーのインストール

PC-mini は、専用の USB ドライバーが必要です。

PC-mini をパソコンに接続する前にならず USB ドライバーをインストールしてください。

この USB ドライバーは、下記 URL よりダウンロードできます。

URL : [http://www.aorja.com/ar-mini-j/CP210x\\_VCP\\_Win2K\\_XP\\_S2K3.exe](http://www.aorja.com/ar-mini-j/CP210x_VCP_Win2K_XP_S2K3.exe)

又は

URL : <http://www.silabs.com/>

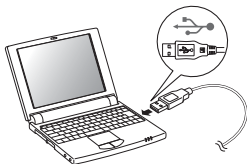
※ VCP Driver kit をダウンロードしてください。

# お使いになる前に

## PC-mini の接続

### ⚠ 警告:

PC-mini をパソコンに接続する前に必ず USB ドライバーがインストールされていることを確認してください。



PC-mini の USB プラグをパソコンの USB 端子に接続します。

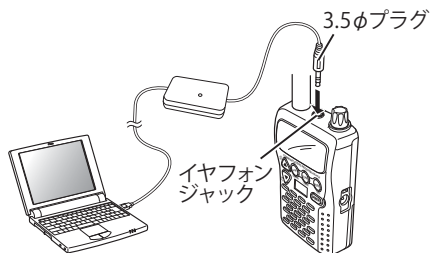
パソコンの USB 端子に PC-mini を接続します。

### ⚠ 注意:

USB プラグはしっかりと確実にパソコンの USB 端子に接続してください。

## AR-mini との接続

- 1 AR-mini の PWR スイッチを 2 秒以上押し、電源をオフにします。
- 2 「FUNC」、▼およびチャンネルローターを押しながら PWR スイッチを 2 秒以上押し、電源をオンにします。
- 3 PRG-M が表示される事を確認してください。
  - 表示されない場合は手順 1 から始めて下さい。
- 4 AR-mini のイヤフォンキャップを外します。
- 5 PC-mini の 3.5 φプラグを AR-mini のイヤフォンジャックにしっかりと差し込みます。



# お使いになる前に

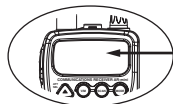
## PC-mini プログラムの起動

ホームページよりダウンロードした AR-mini.exe をクリックし起動させます。

### メモ:

デスクトップ画面にショートカットを作成しておくことをお勧めします。次回からの起動が早くなります。

PC-mini プログラムソフトの操作方法は、プログラムソフト操作説明をご覧ください。



- データの読み込み時表示  
PRG-R
- データの書き込み時表示  
PRG-W
- 終了時  
END



# 使い方の基本

## 電源を入れるには

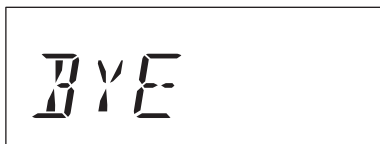
1 電源を入れるには、PWR キーを 2 秒以上押します。

- 起動音が鳴り、表示部が点灯します。



2 電源を切るには、PWR キーを 2 秒以上押します。

- 終了音が鳴り、表示部には「BYE」が表示されます。



### メモ:

出荷時、付属のニッケル水素電池は充電されていません。充電してからお使いください。

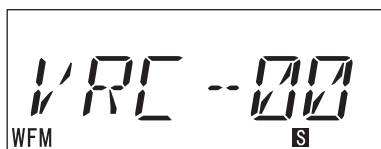
# 使い方の基本

## 音量を調整するには

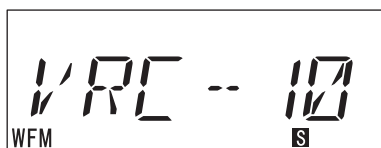
- 1 音量を調整するために、ダイヤルノブを押します。



- 2 音量を上げるには、時計方向にダイヤルを回します。



(音量最小値)



(音量最大値)

- 3 音量を下げるには、反時計方向にダイヤルを回します。

### △ 注意:

- 音量に注意してください。特に、内部スピーカーを使っていた後にイヤホンをお使いになるときは音量を下げてください。
- 安全のために、運転中や歩行中は音量を下げるようにしてください。

### メモ:

- 音量はダイヤルノブが回されると以下のように変化します。  
00 → 01 → (01) → (01) → 02 → (02)  
→ (02) → 03 → (03) → (03) → 04 →  
(04) → (04) → 05 → ..... → 10
- ダイヤルノブを回しても、2段階分は表示される数値は変わりませんが、実際の音量は変化しています。

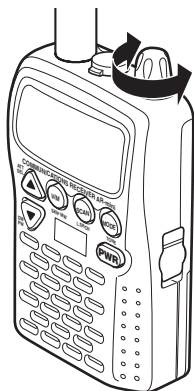
# 使い方の基本

## 周波数を合わせるには

- 1 VFO 状態を確認します。
  - メモリ名が表示されていたら、V/M キーを押して VFO 状態にしてください。
- 2 ▲または▼を押して、希望の周波数帯に合わせます。
  - 周波数帯については、本ページの周波数帯リストを参照してください。



- 3 周波数を上げるには、ダイヤルノブを時計方向に回します。  
周波数を下げるには、ダイヤルノブを反時計方向に回します。



- 4 周波数を大きく変えるには、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回します。



### メモ:

初期状態では、オートステップ機能が設定されています。この機能が設定されていると周波数帯により周波数を増減するステップ数が自動的に変わっていきます。この機能を解除して、手動でステップ数を設定できます。

周波数帯リスト

表示周波数	周波数範囲 (MHz)
0.594	0.1 ~ 1.6200
6.055	1.6200 ~ 51.00
51.000	51.00 ~ 76.00
82.500	76.00 ~ 108.00
128.800	108.00 ~ 142.00
145.000	142.00 ~ 170.00
175.750	170.00 ~ 336.00
370.000	336.00 ~ 430.00
433.000	430.00 ~ 470.00
649.750	470.00 ~ 770.00
903.0125	770.00 ~ 915.00
1295.000	915.00 ~ 1299.995

# 使い方の基本

## スケルチを調整するには

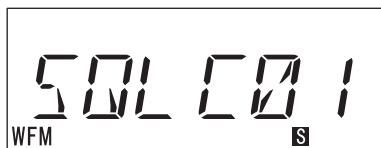
- 1 スケルチを調整するために、ダイヤルノブを2回押します。



- 2 スケルチを調整するために、時計方向にゆっくりとダイヤルを回します。



- 3 ノイズが消えたら、ダイヤルノブを回すのを止めます。



- このノイズが消えた位置をスレッシュホールドと呼びます。
- 4 スケルチを一時的に解除するには、MONI キーを押し続けます。
- MONI キーが押されている間、スケルチは解除されます。

### メモ:

- スケルチはダイヤルノブが回されると以下のように変化します。  
**スケルチ増加 (時計方向)**  
00 → 01 → (01) → 02 → (02) → 03 → (03) → 04 → (04) → 05 → (05) → 06 → 07 → 08 → 09 → 10  
**スケルチ減少 (反時計方向)**  
10 → 09 → 08 → 07 → 06 → 05 → (05) → 04 → (04) → 03 → (03) → 02 → (02) → 01 → (01) → 00  
ダイヤルノブを回しても、表示される数値が変わらない値がありますが、実際のスケルチ設定は変化しています。
- スケルチの値を大きくし過ぎると、弱い信号を受信できなくなります。

# 使い方の基本

## 受信モードを変更するには

本機の初期状態では、オート受信モード機能が設定されています。この機能が設定されていると周波数帯により受信モードが自動的に変わっていきます。この機能を解除して、手動で受信モードを設定できます。

- 1 受信モードを変更するには、MODE キーを押します。



- MODE キーが押されるたび、受信モードは次のように変わっていきます。  
オート → FM → ワイド FM → AM → オート → ……

## モニター（スケルチ解除）

- 1 モニターをするためには、MONI キーを押します。



- モニターした音声は、ノイズが混じっていることがあります。  
トーンスケルチまたは DCS が設定されていても、MONI キーを押すと解除されます。  
トーンスケルチの詳細は 46 ページを参照。DCS の詳細は 48 ページを参照。

# 使い方の基本

## 本機の設定について

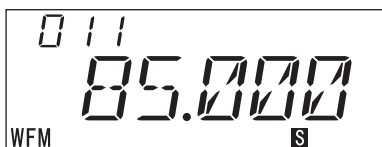
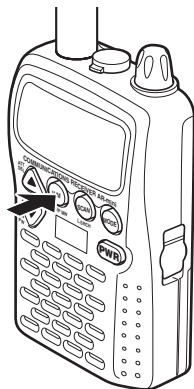
より簡単に希望の周波数を受信するために、本機では以下のような設定ができます。

**VFO 状態**：本機の初期状態の設定です。この設定では、ダイヤルノブを回して直接周波数を変更できます。

**メモリ状態**：周波数に名前を付けてメモリーすることができます。希望の周波数があるときにメモリーを呼び出して受信します。

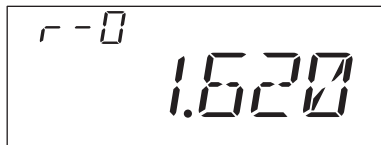
**プリセット状態**：予めプリセット番号に幾つかの周波数が登録されています。それら登録されている周波数を使って受信します。

- 1 VFO 状態からメモリ状態にするには、V/M キーを押します。



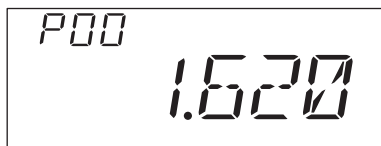
- 2 メモリ状態から VFO 状態に戻るには、V/M キーを押します。

- 3 VFO 状態からプリセット状態にするには、FUNC キーを押しながら▲キーを押します。
- 上記の手順にて、ラジオモード、プリセット、VFO 状態を切り換えます。



(ラジオモード)

- FUNC キーを押しながら▲キーを押す



(プリセット)

- FUNC キーを押しながら▲キーを押す



VFO 状態

### メモ:

手順1にて、メモリが1つも無いときは、ブー音が出ます。

# もっと使いこなすには

## 希望する周波数を見つけるには

本機では受信したい周波数を見つけるために以下のような機能を持っています。

プライオリティワッチ、2VFO ワッチ、サーチおよびスキャン。

### ◆ プライオリティワッチ

この機能は、プライオリティ周波数として設定した周波数と VFO 状態の周波数を 5 秒間ずつ受信します。

### ◆ 2VFO ワッチ

VFO 状態にて 2 つの周波数を 2VFO ワッチ専用メモリに登録します。それぞれの周波数が交互に受信され、どちらか一方で信号を受けると、2VFO ワッチはその間停止します。

### ◆ サーチ

サーチでは、設定した 2 つの周波数の間を連続して周波数を変えていき、受信できる周波数を探します。

サーチには次の 3 つの方法があります。

VFO サーチ、リミットサーチ、リミットリンクサーチ

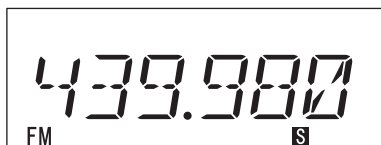
### ◆ メモリスキャン

メモリスキャンでは、メモリに登録されたメモリチャンネルを順次受信していきます。

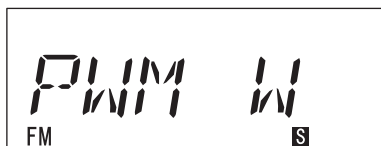
## プライオリティワッチを行うには

この機能は、VFO 状態の周波数とプライオリティ周波数として設定した周波数を 5 秒に 1 度受信します。この機能は、VFO 状態のときに可能です。

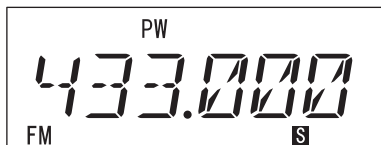
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、プライオリティ周波数にしたい周波数を設定します。



- 3 手順 2 で選んだ周波数をプライオリティメモリに登録するために、FUNC キーを押しながら▲キーを 2 秒以上押します。
  - [PWMM W] が表示されます。



- 4 VFO の周波数を設定した後、FUNC キーを押しながら▼キーを押します。
  - プライオリティワッチが始まります。



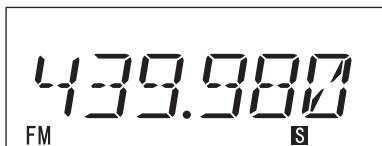
- 5 プライオリティワッチを終了するには、V/M キーを押します。

# もっと使いこなすには

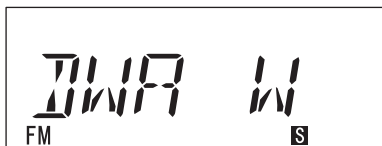
## 2VFO ワッチを行うには

この機能は、VFO 状態にて 2VFO ワッチメモリに 2 つの周波数を保存して、その周波数を交互に受信します。どちらかの周波数で信号があった場合、その周波数にて 2VFO ワッチを停止します。

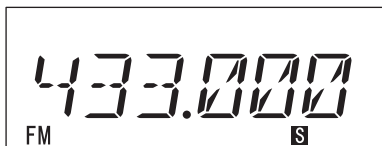
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 ダイアルノブを回して、2VFO ワッチメモリの A に保存したい周波数を設定します。



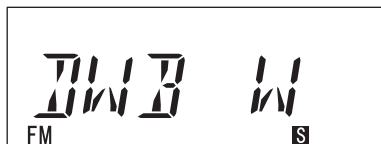
- 3 手順 2 で選んだ周波数を登録するために、FUNC キーを押しながら▼キーを 2 秒以上押します。
  - [DWA W] が表示されます。



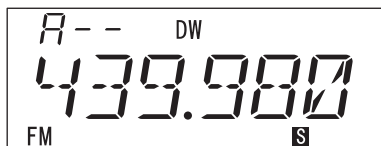
- 4 ダイアルノブを回して、2VFO ワッチメモリの B に保存したい周波数を設定します。



- 5 手順 4 で選んだ周波数を登録するために、FUNC キーを押しながら▼キーを 2 秒以上押します。
  - [DWB W] が表示されます。



- 6 2VFO ワッチを始めるために、▼キーを 2 秒以上押します。



- 7 2VFO ワッチをやめるには、V/M キーを押します。
  - 2VFO ワッチ中、▼キーを 2 秒以上押すごとに、サーチの種類を変える事ができます。
    - B : ビジーサーチ
    - B 点滅 : ホールドサーチ
    - : タイムサーチ(36 ページ参照)



## もっと使いこなすには

### 2VFO ワッチ受信用メモリを使って 2VFO ワッチを行うには

予め 10 組の 2VFO ワッチ受信用メモリが設定されています。この 2VFO ワッチ受信用メモリを使って 2VFO ワッチを行います。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 2VFO ワッチを始めるために、▼キーを 2 秒以上押します。
  - 予め設定していた 2VFO ワッチが始まります。
- 3 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回して 2VFO ワッチ受信用メモリの番号を選びます。
  - 選んだ 2VFO 受信用メモリで 2VFO ワッチが始まります。

#### メモ:

2VFO 受信用メモリについては、77 ページの表を参照してください。

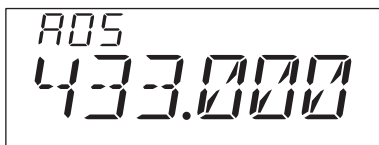
### 2VFO ワッチ受信用メモリを変更するには

予め設定されている 2VFO ワッチ受信用メモリを変更することができます。

- 1 2VFO ワッチを始めます。
  - 32 ページの「2VFO ワッチを行うには」を参照してください。
- 2 FUNC キーを押しながら▼キーを 2 秒以上押します。
- 3 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回して変更したい 2VFO ワッチ受信用メモリの番号を選びます。



- 4 2VFO ワッチ受信用メモリに保存するために、▼キーを 2 秒以上押します。

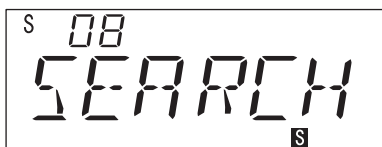


# もっと使いこなすには

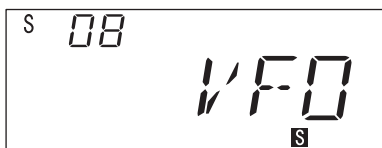
## サーチを行うには

VFO 状態にて、0.1MHz ~ 1299.995MHz までを検索（サーチ）して希望の周波数を見つけることができます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を 08 にします。



- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [VFO] を選びます。
  - 初期状態では、[VFO] が表示されます。



- 5 ダイヤルノブを押して、VFO 状態に戻ります。
- 6 サーチを始めるために、スキャンキーを押します。

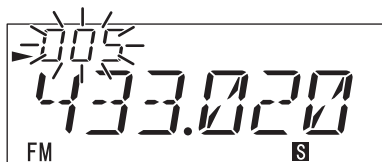


- 信号を受信してサーチが止まると、[ ] が点滅します。
- 7 サーチを止めるには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

## 特定の周波数のみサーチを行わないようにするには (スキップサーチ)

特定の周波数のみサーチを行わないようにすることができます。これをスキップサーチと呼びます。スキップサーチにより希望していない周波数を受信してもサーチが止まることを防ぎます。スキップサーチ用に 100 波まで周波数を保存できます。

- 1 SCAN キーを押してサーチを開始します。
- 2 サーチが止まって、この周波数をスキップサーチとしたいときは、V/M キーを 2 秒以上押します。
  - VFO スキップメモリ番号が表示されます。



- 3 ダイヤルノブを回して、VFO スキップメモリ番号を変更します。
  - この手順は飛ばすことはできませんが、VFO スキップメモリ番号は変更できません。
- 4 VFO スキップメモリに周波数を保存するために、V/M キーを 2 秒以上押します。
- 5 手順の 2 から 4 を繰り返し、他の周波数を VFO スキップメモリに保存していきます。
  - 100 波まで保存することができます。

### メモ:

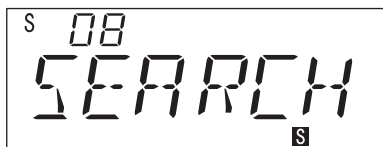
- VFO 状態にて、手順 2 以降と同様の方法で周波数を VFO スキップメモリに保存できます。
- VFO スキップメモリを消去することができます。(詳細は 61 ページ「VFO スキップメモリを消去する」を参照してください。)

# もっと使いこなすには

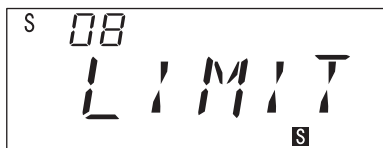
## リミットサーチを行うには

サーチする範囲を設定して、その間のみサーチすることができます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を 08 にします。



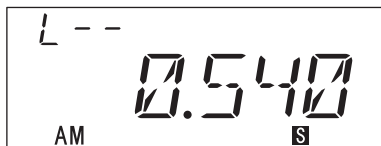
- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [LIMIT] を選びます。
  - 初期状態では、[VFO] が表示されます。



- リミットサーチが設定されました。

- 5 VFO 状態に戻るために、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 6 下限の周波数を設定するために、ダイヤルノブを回し、下限周波数を合わせます。
- 7 FUNC キーを押しながら SCAN キーを押します。
  - [SCHAW] を表示し、VFO 状態に戻ります。
- 8 上限の周波数範囲を設定するために、ダイヤルノブを回し、上限周波数を合わせます。

- 9 FUNC キーを押しながら SCAN キーを押します。
  - [SCHBW] を表示し、VFO 状態に戻ります。
- 10 SCAN キーを押して、リミットサーチを開始します。



- 11 リミットサーチを止めるには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

### メモ:

リミットサーチ用のメモリは、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して呼び出すことができます。

# もっと使いこなすには

## サーチの方法を変更するには

本機は3種類のサーチ方法があります。サーチ中にこの方法を変更できます。

- 1 サーチを開始します。
- 2 SCAN キーを押して、サーチの種類を変更できます。
  - サーチの種類は、SCAN キーが押される度に次のように変わります。  
ビジーサーチ → ホールドサーチ → タイムサーチ → ビジーサーチ → ……
  - ビジーサーチ：このサーチ中は [B] が表示されます。  
信号を受信している間は、サーチは停止します。信号が無くなってから2秒後にサーチを再開します。
  - ホールドサーチ：このサーチ中は [B] が点滅します。  
信号を受信するとサーチは停止します。
  - タイムサーチ：このサーチ中、マークは出ません。  
信号を受信すると5秒間サーチを停止します。信号を受けていても5秒後にはサーチを再開します。5秒間より短い間に信号が無くなったときは、信号が無くなってから2秒後にサーチを再開します。設定番号の07にてサーチを停止している時間を変更できます。

## サーチバンドメモリを変更するには

初期状態では、リミットサーチ用のサーチバンドメモリが予め設定されています。サーチバンドメモリの周波数を変更することができます。

- 1 リミットサーチを開始します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回してサーチバンドメモリ番号を選びます。
- 3 FUNC キーを押しながらSCAN キーを2秒以上押します。

### メモ：

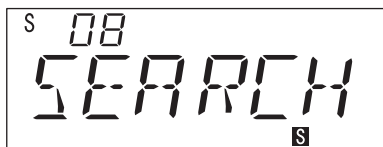
サーチバンドメモリについては、77ページの表を参照してください。

# もっと使いこなすには

## リミットリンクサーチを行うには

リミットサーチをリンクさせるリミットリンクサーチを行うことで、簡単にリミットサーチの範囲を変更することができます。

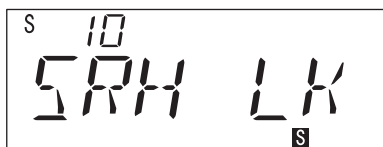
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を 08 にします。



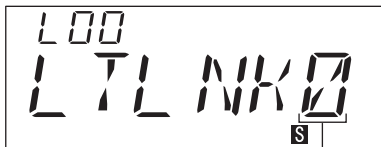
- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [LTLNK] を選びます。
  - 初期状態では、[VFO] が表示されます。



- 5 ダイヤルノブを回して、設定番号を 10 にします。

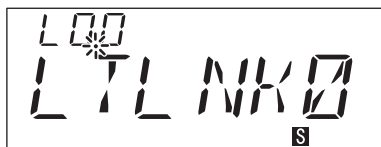


- 6 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、リンクさせたいリミットサーチのメモリー番号を選び、FUNC キーを放します。
  - 10 個のメモリーが可能です。



リミットサーチ  
メモリー番号 (0~9)

- 7 ダイヤルノブを回して、リンクを設定します。
  - リンク番号に [.] が表示されます。
  - 初期設定では、全てのリンクが有効になっています ([.] 点灯) ので、リンクさせないリミットサーチ番号の [.] を消してください。



- 8 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、次にリンクさせたいリミットサーチ番号を選びます。

- 9 ダイヤルノブを回して、リンクを設定します。
  - リンク番号に [.] が表示されます。

- 10 ダイヤルノブを押して、手順 6 に戻ります。

- 11 VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

- 12 SCAN キーを押して、リミットリンクサーチを始めます。

- リミットリンクサーチは、手順 6 で表示されているリミットサーチメモリー番号 (0 ~ 9) でサーチを行います。

- 13 リミットリンクサーチを止めるには、V/M キーを押します。

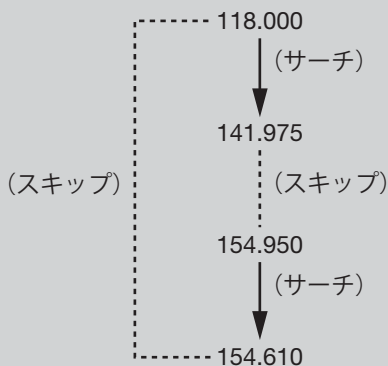
# もっと使いこなすには

## アドバイス:

サーチの方法（ビジー、ポーズ、ホールド）の設定は 36 ページ「サーチ方法を変更する」をご覧ください。

## 例:

リミットサーチメモリ 00 は、118.00MHz ~ 141.975MHz に設定されています。  
リミットサーチメモリ 01 は、154.95MHz ~ 154.61MHz に設定されています。  
メモリ 00 とメモリ 01 がリンクされたとき、サーチ範囲は次のようになります。



## メモリについて

1000 波の周波数をメモリに保存することができます。メモリは 100 波ごとに 1 つのメモリバンクに保存されます。

メモリには名前を付けて、トーンスケルチや他の設定も合わせて保存できます。

メモリされている周波数をスキャンします。

## メモ:

幾つかの短波放送は予めメモリされています。(詳細は、75 ページを参照してください。)

# もっと使いこなすには

## 表示されている周波数をメモリするには

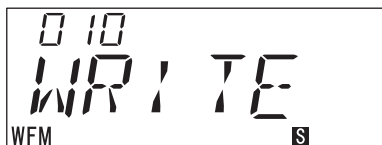
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 ダイアルノブを回して、メモリに保存したい周波数に合わせます。



- 3 FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。
  - メモリ番号が点滅します。
- 4 ▲または▼キーを押して、メモリバンク番号を変更します。
- 5 ダイアルノブを回して、メモリ番号を変更します。
  - メモリ番号を変更する必要が無いときは、この手順を飛ばしてください。



- 6 メモリに保存するために、FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。

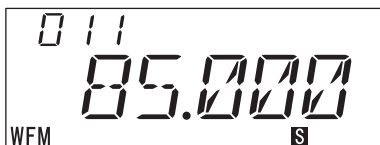


### メモ:

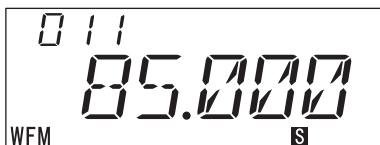
手順3にて、V/M キーだけを押しと、メモリはせずに VFO 状態に戻ります。

## メモリを呼び出すには

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 メモリを呼び出すために、V/M キーを押します。
- 3 ▲/▼キーを押すまたはダイアルノブを回して、希望するメモリ番号を呼び出します。



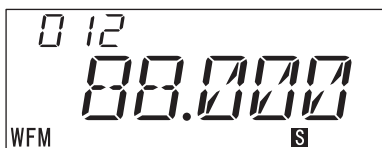
- 4 元の VFO 状態に戻るには、V/M キーを押します。



## もっと使いこなすには

### 表示されているメモリの周波数のまま VFO 状態に戻るには

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 メモリを呼び出すために、V/M キーを押します。
- 3 ▲ / ▼ キーを押すまたはダイヤルノブを回して、希望するメモリを呼び出します。

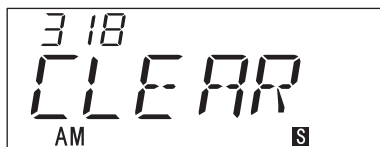


- 4 ▲ と ▼ キーを同時に押して、メモリで表示されていた周波数のまま VFO 状態に戻ります。



### メモリを消す

- 1 メモリ状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、消したいメモリを呼び出します。
- 3 FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。
  - [CLEAR] が表示されます。



- 4 メモリを消すには、FUNC キーを押しながら V/M キーを押します。
  - メモリが消され、メモリ呼び出し状態に戻ります。

#### メモ:

手順3にて、V/M キーだけを押しと、操作を止めてメモリ呼び出し状態に戻ります。

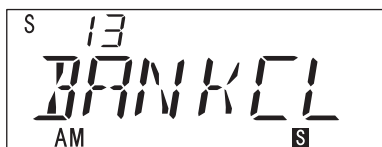


## もっと使いこなすには

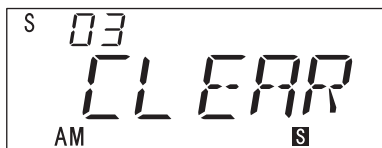
### メモリバンク内のメモリを 全て消す

同じメモリバンク内に保存されているメモリを全て消すことができます。

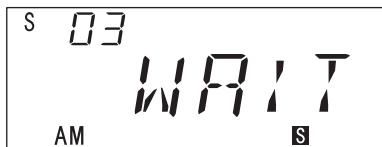
- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押し設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を 13 にします。



- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [CLEAR] を選びます。
  - 選ぶためには、FUNC キーを放します。



- 5 ダイヤルノブを回して、消したいメモリバンクの番号を選びます。
- 6 FUNC キーを押しながら、V/M キーを押します。



- [WAIT] が約 2 秒間表示され、選んだメモリバンク内のメモリは消去されます。
- メモリバンクの番号は消えて、次のメモリバンクの番号が表示されます。
- この操作を止めるには、V/M キーを押してください。

- 7 他に消したいメモリがあるときは、手順 4 から繰り返してください。
- 8 ダイヤルノブを押し、手順 3 に戻ります。
- 9 元の VFO 表示に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

# もっと使いこなすには

## メモリに名前を付ける

メモリに6文字までの名前を付けることができます。

- 1 メモリ状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、名前を付けたいメモリを呼び出します。
- 3 FUNC キーを押しながら、SCAN キーを押します。
  - 文字の入力できる箇所が点滅になります。
- 4 ダイヤルノブを回して文字を選びます。
- 5 入力できる位置を変更するために、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。



- 6 名前を保存するために、FUNC キーを押しながら V/M キーを押します。

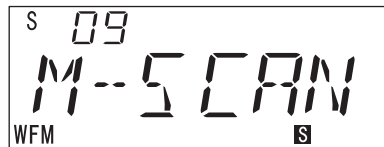
### メモ:

入力した文字を変更するには、手順1～3を行い、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して変更したい文字を選びます。ダイヤルノブを回して新しい文字にした後で FUNC キーを押しながら V/M キーを押して保存します。

## メモリをスキャンする

全てのメモリをスキャンできます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を09にします。



- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [ALL] を選びます。
- 5 元の VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 6 メモリ状態にするために、V/M キーを押します。
- 7 SCAN キーを押して、スキャンを開始します。
- 8 V/M キーを押すと、メモリ呼び出し状態に戻ります。

## もっと使いこなすには

### 特定のメモリのみスキャンを行わないようにするには (スキップスキャン)

特定のメモリのみスキャンを行わないようにすることができます。これをスキップスキャンと呼びます。スキップスキャンにより希望していない周波数を受信してもスキャンが止まることを防ぎます。すべてのメモリをスキップスキャンに設定できます。

- 1 メモリ状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、スキップスキャンしたいメモリ番号に合わせます。
- 3 V/M キーを2秒以上押します。
  - スキップメモリ (▶) が表示されます。



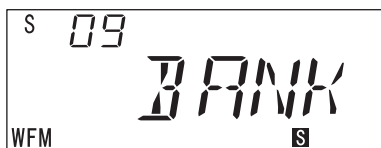
#### メモ:

通常のメモリに戻すには、手順4にてV/M キーを2秒以上押してください。

### メモリバンクをスキャンするには

特定のメモリバンク内のメモリを使ってスキャンをすることができます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を09にします。
- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して [BANK] を選びます。



- 5 VFO 状態に戻るため、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 6 メモリ状態にするために、V/M キーを押します。
- 7 ▲または▼キーを押して、希望するメモリバンクに合わせます。
- 8 SCAN キーを押します。
  - メモリバンク内のメモリのスキャンが始まります。
- 9 メモリバンクを変更するには、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。
- 10 メモリ呼び出し状態に戻るには、V/M キーを押します。

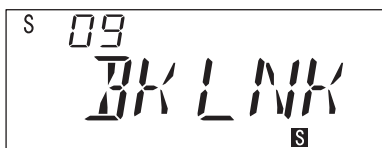
# もっと使いこなすには

## メモリバンクリンクを行うには

あるメモリバンクを他のメモリバンクとリンクさせてスキャンすることができます。

\* 本機は0～9番までの10のメモリを持っています。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押して設定を変更します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号を09に合わせます。
- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して[BKLNK]を選びます。
  - 初期状態では、[ALL]が表示されます。



- 5 ダイヤルノブを回して、設定番号を11にします。
- 6 メモリバンクリンクのメモリ番号を選ぶために、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。

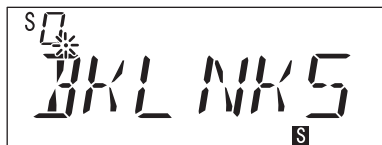


メモリバンクリンクの  
メモリ番号

- 0～9の10個のメモリができます。

- 7 FUNC キーを放します。

- 8 ダイヤルノブを回して、リンクさせたいメモリバンク番号に[.]を点灯させます。
  - リンク番号に[.]が点灯します。
  - 初期値は、すべて点灯になっているので、リンクさせないバンク番号の[.]を消してください



- 9 次のリンクさせたいメモリバンク番号を選ぶために、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。
- 10 FUNC キーを放します。
- 11 ダイヤルノブを回して、リンク番号に[.]を点灯させます。



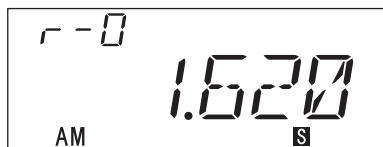
- 12 手順9からをくり返し、メモリバンク番号を選びます。
- 13 ダイヤルノブを1回押すと設定番号11に戻ります。メモリバンクリンクのメモリ番号を変更するには、手順6からくり返します。
- 14 VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 15 V/M キーを押し、メモリ呼び出し状態でSCAN キーを押すと、手順6で選択したメモリバンクリンクのメモリ番号で、スキャンを始めます。
- 16 V/M キーを押すと、スキャンが停止します。

# もっと使いこなすには

## 放送局の受信を行う

この機能は、予め設定された一般の AM や FM 放送をより簡単に受信するためのものです。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながら、▲キーを何回か押し放送局のメモリ番号を表示します。
- 3 ▲または▼キーを押して、放送局のメモリ番号を変更します。



- 4 ダイヤルノブを回して、プリセットチャンネルから周波数を変更できます。
- 5 VFO 状態に戻るには、FUNC キーを押しながら▲キーを2回押します。

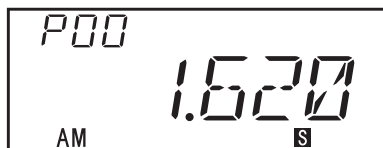
### メモ:

- 手順4にて、周波数を変更できるのは、規定された範囲内です。この範囲は周波数帯により決められます。
- 予め設定されている放送局については、75ページの表を参照してください。
- r-5は、速度取締無線とカーローケーター周波数の受信です。初期状態では、r-5を呼び出すとSPDが表示されます。ダイヤルノブでSPDとPATを切り替えます。SPDとPATを2VFOワッチするには、FUNCを押しながら▼を2秒以上押します。
- 2VFOワッチでは、信号を受信した周波数で一時停止し、ピーブ音が鳴ります。信号が無くなると5秒後に2VFOワッチを再開します。
- SPDとPATの2VFOワッチを解除するには、V/Mキーを押します。

## プリセットを使う

プリセットチャンネルとして予め12の周波数が設定されています。それらの周波数は各周波数帯にて代表的な周波数を選んでいきます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 FUNC キーを押しながら、▲キーを何回か押しプリセットチャンネル番号を表示します。



- 3 ▲または▼キーを押して、プリセット番号を変更します。
- 4 ダイヤルノブを回して、プリセットチャンネルから周波数を変更できます。
- 5 VFO 状態に戻るには、FUNC キーを押しながら▲キーを1回押します。

### メモ:

- プリセット番号の12番は、メモリ番号の980～999の内から選ばれます。
- ダイヤルノブを回して、プリセットの12番を選んでください。
- プリセットチャンネルについては、74ページの表を参照してください。
- 初期状態、プリセットメモリP12はMEM980～MEM999を表示しますが、メモリ980～999に名前を付加してメモリすると、P12で呼び出したメモリチャンネルは、名前を表示します。メモリが空の場合または名前をメモリしていない場合はMEM\*\*\*になります。

# もっと使いこなすには

## トーンスケルチを使うには

トーンスケルチが設定されているとトーンスケルチが設定された目的の信号以外を受信してもスケルチは開かず、音声が出ません。トーンスケルチは 50 種類の中から選びます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 [TSQ] が表示されるまで、FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押し  
ます。
  - [TSQ] の表示を解除するには、次のよう  
に行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押  
しながら MODE キーを何回か押し、  
FUNC を放して V/M キーまたはダイヤ  
ルノブを押します。
- 3 V/M キーかダイヤルノブを押します。
  - [TSQ] マークが表示されます。
- 4 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブ  
を押して機能の変更をします。
- 5 ダイヤルノブを回して、設定番号を 20  
に合わせます。
- 6 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブ  
を回してトーン周波数を選びます。
- 7 元の表示に戻るには、V/M キーまたは  
ダイヤルノブを押します。
- 8 操作をやめるには、[VFO] が表示され  
るまで FUNC キーを押しながら MODE  
キーを何回か押しします。その後 V/M  
キーまたはダイヤルノブを押します。
  - [TSQ] マークが消えます。

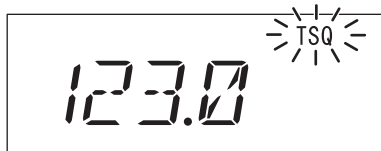
### メモ:

- AM とワイド FM が設定されたときは、  
トーンスケルチのマークが表示されて  
いてもトーンスケルチは働きません。
- トーンスケルチについては、76 ページ  
の表を参照してください。

## トーン周波数をサーチするには

トーンが乗っている信号を受けたときに、そ  
のトーンの周波数が幾つであるかをサーチし  
ます。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 ダイヤルノブを回して、サーチしたいトーン  
が乗っている信号の周波数に合わせます。
- 3 [TONSRH] が表示されるまで、FUNC  
キーを押しながら MODE キーを何回か  
押しします。
  - [TONSRH] の表示を解除するには、  
次のように行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押  
しながら MODE キーを何回か押し、  
FUNC を放して V/M キーまたはダイヤ  
ルノブを押します。
- 4 V/M キーかダイヤルノブを押します。
  - [TSQ] マークが点滅します。
  - トーンが合ったら、そのトーン周波数  
を表示します。



- トーンが合わないときは、[NOTONE]  
と表示し、[TSQ] は点滅します。



## もっと使いこなすには

- 5 操作をやめるには、[VFO] が表示されるまで FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。その後 V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- [TSQ] マークが消えます。

### メモ:

本機がたとえ受信していなくても、スケルチが 00 になっている、または MONI キーが押された場合はノイズによってトーン周波数が表示されることがありますが故障ではありません。この機能をご使用されるときは、スケルチを設定することをお勧めします。

## 逆トーンスケルチを使うには

この機能を使って、逆トーンスケルチを行います。

通常の無線機では、音声にトーン信号を乗せて送信します。そのトーン信号が設定したものと合った時にスケルチが開きます。特別な無線機(タクシー無線など)では、常時トーン信号を乗せた状態で送信し、会話を行うときにのみトーン信号を乗せずに音声のみ送信します。このようなトーン信号の乗せ方に対応したものが逆トーンスケルチです。

- 1 VFO 状態にします。
- 2 [REVTSQ] が表示されるまで、FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。
  - [REVTSQ] の表示を解除するには、次のように行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押しながら MODE キーを何回か押し、FUNC を放して V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 3 V/M キーかダイヤルノブを押します。
  - [T] マークが表示されます。



- 4 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押して機能の変更をします。
- 5 ダイヤルノブを回して、設定番号を 21 に合わせます。
- 6 ダイヤルノブを回して、[REVTSQ] を選びます。
- 7 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回してトーン周波数を選びます。
- 8 VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 9 操作をやめるには、VFO になるまで FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。その後 V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

# もっと使いこなすには

## DCS を使うには

DCS (Digital Code Squelch) が乗った信号を受信したときにスケルチを開くために DCS を設定できます。DCS コードは 104 種類の中から選びます。

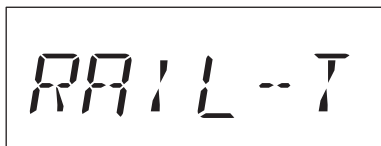
- 1 VFO 状態にします。
- 2 [DCS] が表示されるまで、FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。
  - [DCS] の表示を解除するには、次のように行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押しながら MODE キーを何回か押し、FUNC を放して V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 3 V/M キーかダイヤルノブを押します。
  - [DCS] マークが表示されます。
- 4 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押して機能の変更をします。
- 5 ダイヤルノブを回して、設定番号を 25 にします。
- 6 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回して DCS コードを選びます。
- 7 元の表示に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 8 操作をやめるには、VFO になるまで FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。その後 V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

### メモ:

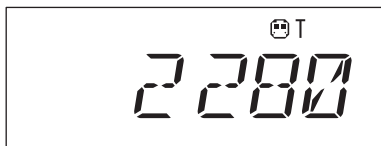
AM とワイド FM が設定されたときは、[DCS] マークが表示されていても DCS は働きません。DCS コードについては、76 ページの表を参照してください。

## 空線信号を消すには (鉄道無線の受信)

- 1 VFO 状態で鉄道周波数に合わせます。
- 2 [RAIL-T] が表示されるまで FUNC キーを押しながら MODE キーを押します。



- [RAIL-T] の表示を解除するには、次のように行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押しながら MODE キーを何回か押し、FUNC を放して V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 3 V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
    - 空線周波数 (2280) が表示されます。
  - 4 ダイヤルノブを回して、受信の音が消えるような周波数に合わせます。



- 5 受信周波数を変更するには、MODE キーを 1 回押し、ダイヤルノブを回します。
  - MODE キーが押されると、周波数表示に変わります。



- 6 VFO 状態に戻るには、VFO 状態が表示されるまで FUNC を押しながら MODE キーを何回か押し、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

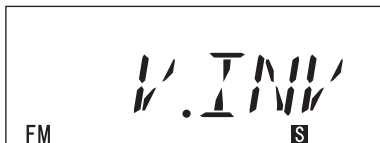


## もっと使いこなすには

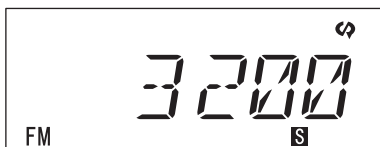
- 7 周波数をメモリするには、手順 5 の周波数表示をさせた状態で、FUNC キーを押しながら V/M キーを押します。
  - 書き込みモードになります。
- 8 メモリさせたいアドレスを選び、FUNC キーを押しながら V/M キーを押します。
  - メモリの仕方は、39 ページを参照してください。

## 秘話通話を聞く

- 1 VFO 状態にします。
- 2 ダイアルノブを回して、秘話通話の周波数に合わせます。
- 3 [V.INV] が表示されるまで、FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。



- [V.INV] の表示を解除するには、次のように行ってください。  
VFO の表示になるまで FUNC を押しながらか MODE キーを何回か押し、FUNC を放して V/M キーまたはダイアルノブを押します。
- 4 ダイアルノブを押します。
    - 秘話通話に使われるキャリア (搬送波) 周波数と一緒に秘話通話のアイコンが表示されます。



- 5 通話が聞きやすくなるようにダイアルノブを回します。
- 6 操作をやめるには、VFO になるまで FUNC キーを押しながら MODE キーを何回か押します。その後 V/M キーまたはダイアルノブを押します。

### メモ:

手順 5 にて、MODE キーを押すと表示が周波数になり秘話通信の周波数を変更することができます。

# もっと使いこなすには

## 信号の減衰する (アッテネーター)

この機能は信号の強さを 15dB 減衰できます。

- 1 VFO 状態にします。
- 2 ▲キーを 2 秒以上押します。
  - [ATT] が表示されます。



- 3 操作をやめるには、▲キーを 2 秒以上押します。
  - [ATT] が消えます。

## キーを使えないようにする (キーロック)

この機能は偶然にキーが押されて、設定が変わってしまうことを防ぎます。

- 1 VFO 状態にします。
- 2 FUNC キーを押しながら、MONI キーを押します。
  - [O $\rightarrow$ ] が表示されます。



- [O $\rightarrow$ ] が表示されている間は、FUNC、MONI、PWR キー及び VRC/SQL 以外のキーは操作できません。
- 3 操作をやめるには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
    - [O $\rightarrow$ ] が消えます。

# もっと使いこなすには

## 盗聴器用の周波数をスキャンする

本機には、盗聴器によく使われる122の周波数が既にメモリされています。この周波数をスキャンして盗聴器を探します。

- 1 VFO 状態を確認します。
- 2 SCAN キーを2秒以上押します。
  - [t] が表示されます。



- 強い信号を見つけると表示します。
- 発見した信号の周波数を20波まで保存されます。保存した周波数はダイヤルノブを回して確認できます。
- 信号が発見できなかったときは、[NON] が表示されます。



- 3 操作をやめるには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。
- 4 VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

### メモ:

- より使いやすのために設定番号04 (Sメーター感度) および05 (Sメーターブザー) を選んでください。
- 盗聴器の使用周波数については、73ページの表を参照してください。

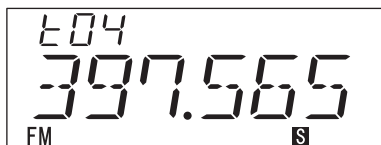
### △ 注意:

- この機能は盗聴器の発見を補助するもので、全ての盗聴器を探し出せるわけではありません。

## 盗聴器発見機能を使う

この機能は盗聴器の信号の強さをビープ音で知らせます。

- 1 「盗聴器用の周波数をスキャンする」を行い、盗聴器用周波数を探します。
- 2 ダイヤルノブを回して、探し出した周波数を表示します。



- 3 FUNC キーを押しながら、SCAN キーを2秒以上押します。



- Sメーター感度がローに設定されます。

- 4 操作をやめるには、V/M キーを押します。
- 5 VFO 状態に戻るには、V/M キーまたはダイヤルノブを押します。

### メモ:

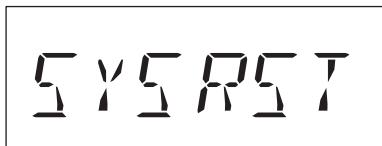
- 手順3にて、ビープ音は次のように鳴ります。  
ゆっくりしたビープ音：弱い信号を受信  
中間のビープ音：中間の強さの信号を受信  
速いビープ音：強い信号を受信
- ATT が自動設定されますので、▲キーを2秒以上押すとATTを解除することができます。

## もっと使いこなすには

### システムのみ初期状態にする (システムリセット)

システムリセットを行うと、通常メモリやス  
キップメモリを除いた全ての設定が初期状態  
に戻ります。

- 1 電源を切ります。
- 2 FUNCとMONIキーを押しながら電源を  
入れます。
- 3 [SYSRST] が点滅することを確認します。

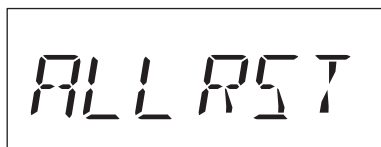


- 4 システムを初期状態に戻すために、ダイ  
ヤルノブを2秒以上押します。
  - システムリセットを行わないときはV/  
Mキーを押します。VFO状態の表示  
に戻ります。

### 全てを初期状態にする (オールリセット)

オールリセットを行うと、本機の全ての設定  
が初期状態に戻ります。

- 1 電源を切ります。
- 2 FUNC、MONIキーとダイヤルノブを押し  
ながら電源を入れます。
- 3 [ALLRST] が点滅することを確認します。



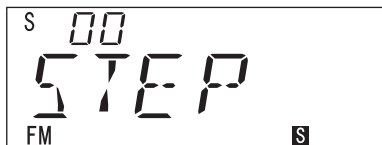
- 4 全ての設定を初期状態に戻すために、  
ダイヤルノブを2秒以上押します。
  - オールリセットを行わないときはV/M  
キーを押します。VFO状態の表示に戻  
ります。

# 設定を変更するには

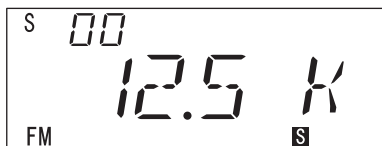
## 周波数ステップを変更する

この設定を使って、周波数ステップを変更します。初期状態では、周波数ステップは周波数帯により自動で変更されます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 00 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、希望の周波数ステップを選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

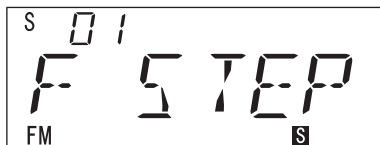
### メモ:

9kHz ステップは AM モードのみ設定できます。8.33kHz ステップはエアーバンドのみ設定できます。

## ファストステップを変更する

この設定を使って、ファストステップの設定を変更します。ファストステップは、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回すことで、ファストステップとなり周波数を大きくかえることができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 01 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、希望のファストステップを選びます。

- ファストステップは、以下のように設定できます。10kHz、100kHz、1MHz、10MHz および 100MHz。(初期値は 1MHz)

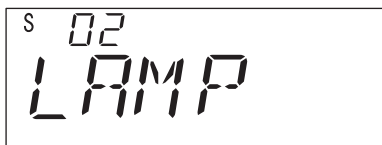
- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

# 設定を変更するには

## 照明の点灯時間を変更する

この設定を使って、表示部が照明されている時間を変更します。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 02 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[AUTO]、[OFF] または [ON] から選びます。
  - AUTO を選ぶと、キーの操作が終わってから約 5 秒後に照明は消えます。
  - OFF を選ぶと、どのキーの操作を操作しても照明は点灯しません。
  - ON を選ぶと、照明は常に点灯した状態になります。

- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

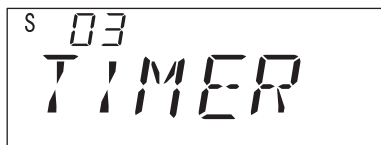
### メモ:

電池の消費を防ぐために、AUTO を設定することをお勧めします。

## タイマー設定する

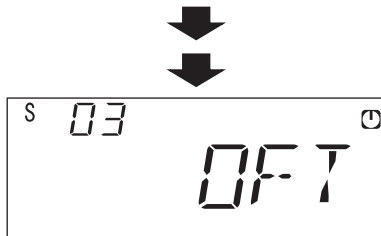
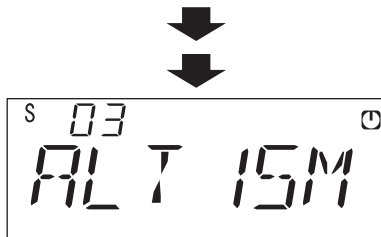
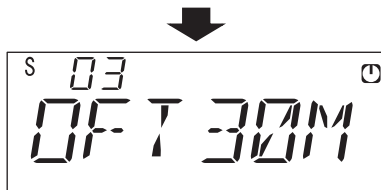
この設定を使って、アラームが鳴る時間や電源を切る時間を設定できます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 03 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、設定を選びます。

(詳細は、以下を参照してください。)



## 設定を変更するには

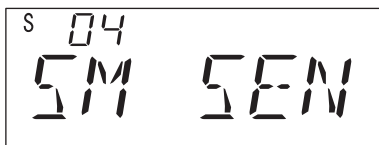
- アラームが鳴る時間や電源を切る時間は、次のように設定できます。  
OFF 30M: 30 分後に電源を切ります。  
OFF 60M: 60 分後に電源を切ります。  
OFF 90M: 90 分後に電源を切ります。  
ALT 15M: 15 分後にアラームが鳴ります。  
ALT 30M: 30 分後にアラームが鳴ります。  
ALT 45M: 45 分後にアラームが鳴ります。  
ALT 60M: 60 分後にアラームが鳴ります。  
OFT: 全ての設定を解除します。

- 4** 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

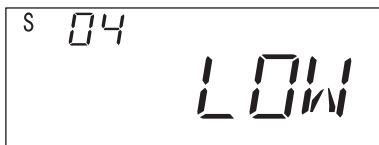
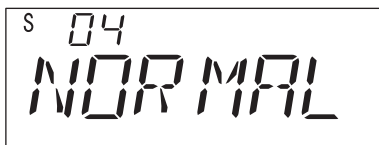
## S メーターの感度を変更する

この設定を使って、S メーターの感度を低下させることができます。

- 1** 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2** ダイヤルノブを回して、設定番号 04 にします。



- 3** FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[LOW] を選びます。



- 4** 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### メモ:

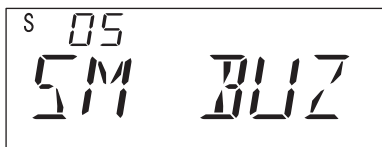
この機能は AM とワイド FM には使えません。この機能と S メーターブザーを併用すると盗聴器発見機能をより便利に使えます。

# 設定を変更するには

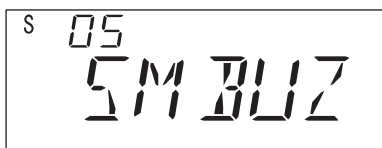
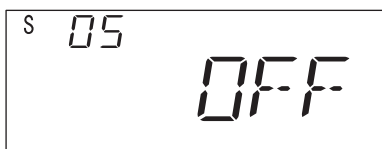
## Sメーターブザーを設定する

この設定を使って、Sメーターの値に合わせてブザーを鳴らすことができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 05 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[SMBUZ] を選びます。



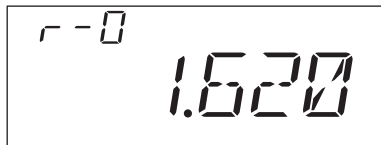
- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### メモ:

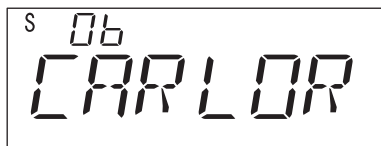
この機能は AM とワイド FM には使えません。この機能と Sメーター感度を併用すると盗聴器発見機能をより便利に使えます。

## カーロケ機能を OFF にする

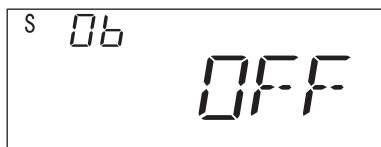
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら▲キーを押してプリセット (ラジオモード) にします。



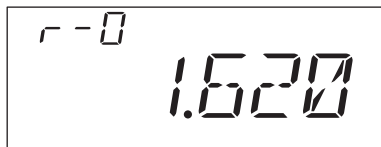
- 2 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを押します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号 06 にします。



- 4 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回し、[OFF] を選びます。



- 5 ダイヤルノブを押します。
  - r-5 が削除され、r-0 に戻ります。



### メモ:

カーロケ機能を呼び出すには、手順1から行い、手順4で [CARLOR] を選びます。

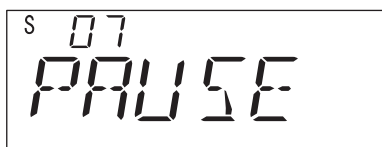


# 設定を変更するには

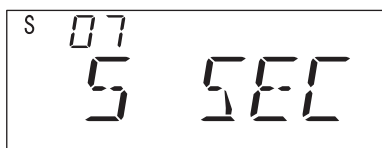
## スキャン・サーチの再開時間を設定する

この設定を使って、スキャンやサーチで信号を受信して止まったときに、スキャンやサーチを再開する時間を設定できます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 07 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、再開する時間を設定します。
  - 再開する時間は 1 秒から 12 秒間で設定できます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

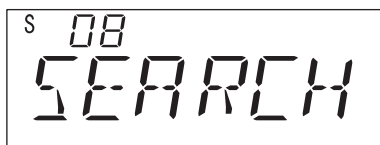
### メモ:

この機能はスキャン、サーチ、プライオリティワッチ、2VFO ワッチのときに働きます。

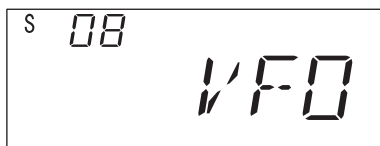
## サーチ方法を設定する

この設定を使って、サーチ方法を設定することができます。

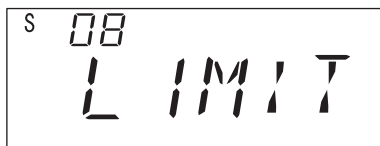
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 08 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、サーチ方法を選びます。
  - VFO サーチ  
VFO を選びます。0.1MHz から 1299.995MHz の間をサーチします。



- リミットサーチ  
LIMIT を選びます。限定した範囲をサーチします。



- リミットリンクサーチ  
LTLNK を選びます。限定した範囲をリンクさせてサーチを行います。



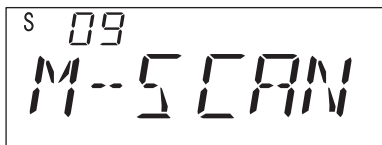
- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

# 設定を変更するには

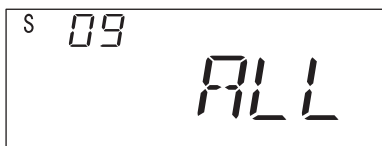
## スキャン方法を設定する

この設定を使って、スキャン方法を設定することができます。

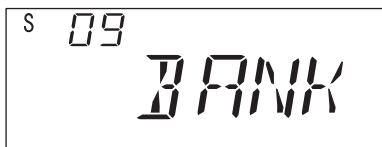
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 09 にします。



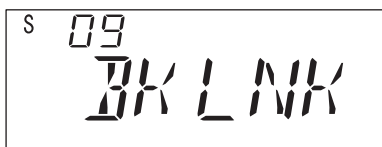
- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、サーチ方法を選びます。
  - オールスキャン  
ALL を選びます。全てのメモリをスキャンします。



- バンクスキャン  
BANK を選びます。1つのバンクメモリ内をスキャンします。



- バンクリンクスキャン  
BKLNK を選びます。メモリバンクをリンクさせてスキャンを行います。

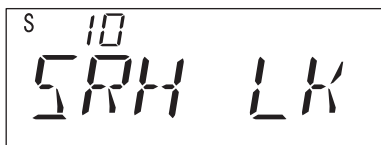


- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

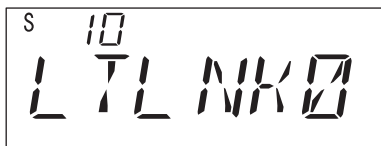
## リミットリンクサーチを設定する

この設定を使って、リミットリンクサーチを設定します。

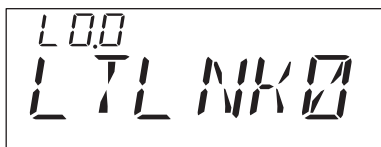
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 10 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、リンクさせたいリミットリンク番号を選びます。
  - 表示されていた設定番号がサーチバンドメモリ番号に変わります。



- 4 FUNC キーを放します。
  - サーチリンクマークが表示されます。



- 5 ダイヤルノブを押して、手順2に戻ります。
- 6 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

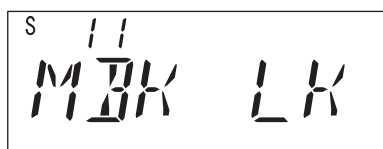
メモ：  
リミットリンクサーチを解除するときには、手順1から3を行い、解除したいリミットリンクサーチ番号を選んでください。その後でダイヤルノブを押してください。

## 設定を変更するには

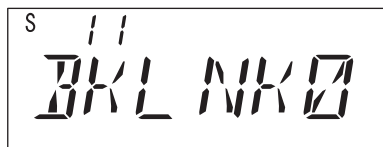
### バンクリンクスキャンをするためのメモリを設定する

この設定を使って、バンクリンクスキャンするためのメモリを設定します。

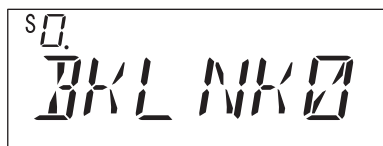
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 11 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、メモリ番号を選びます。



- 4 FUNC キーを放します。
  - バンクリンクマークが表示されます。



- メモリバンク番号を選ぶには、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。

- 5 ダイヤルノブを押して、手順 2 に戻ります。
- 6 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

#### メモ:

バンクリンクを解除するときは、手順 1 から 4 を行い、解除したいメモリバンク番号を選んでください。その後でダイヤルノブを回して [.] (バンクリンクマーク) を消してください。

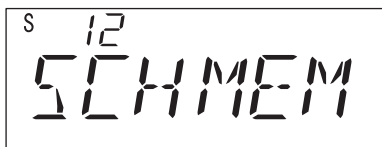
## 設定を変更するには

### リミットサーチの周波数を 確認する

この設定を使って、リミットサーチの周波数を確認できます。

1秒ごとにリミットサーチの上限と下限の周波数が表示されます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 12 にします。



- 3 確認をするために、FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、リミットサーチを選びます。



- 4 ダイヤルノブを回し、リミットサーチのアドレスを選びます。
  - 下限と上限の周波数を交互に表示します。
- 5 ダイヤルノブを押して、手順2に戻ります。
- 6 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

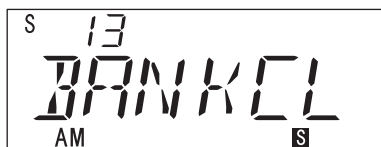
#### メモ:

- 手順3にて、24組のリミットサーチを確認できます。
- この設定は、周波数の確認のみです。リミットサーチの周波数は変更できません。

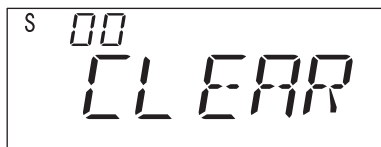
### メモリバンク内のメモリを 消去する

この設定を使って、メモリバンク内の全てのメモリを消去できます。

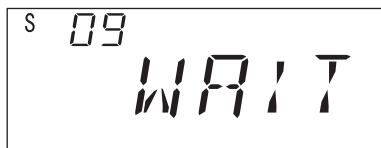
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 13 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回します。



- 4 ダイヤルノブを回して、消去したいバンクメモリの番号を選びます。
- 5 FUNC キーを押しながら V/M キーを押します。



- 6 ダイヤルノブを回します。
  - メモリバンクに登録されていたメモリを消して、次のメモリバンクの番号を表示します。
  - この操作を止めるには、V/M キーを押します。
- 7 他のメモリを消すには手順3から繰り返します。

## 設定を変更するには

- 8 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

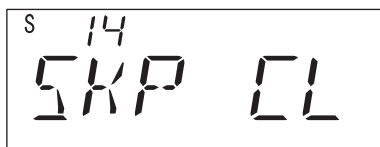
**メモ:**

手順 3 にて、メモリが 1 つも無いメモリバンクの番号は表示されません。

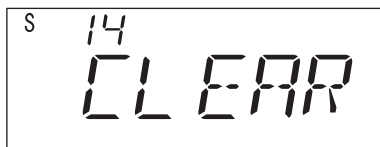
## VFO スキップメモリを消去する

この設定を使って、VFO スキップメモリを消去できます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 14 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[CLEAR] を選びます。



- 4 ダイヤルノブを押します。
  - VFO スキップメモリが消去されます。
  - この操作を止めるには、V/M キーを押します
- 5 ダイヤルノブを押して、手順 2 に戻ります。
- 6 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

**メモ:**

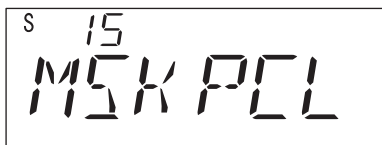
手順 3 にて、VFO スキップメモリが無いときは、[CLEAR] は表示されません。

## 設定を変更するには

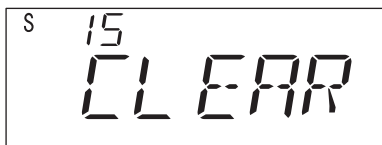
### メモリのスキップマークを消去する

この設定を使って、メモリのスキップマークを消去できます。スキップマークを付けたメモリは、スキャンのときにスキップされます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 15 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[CLEAR] を選びます。



- 4 ダイヤルノブを押します。
  - スキップマークが消去されます。
- 5 ダイヤルノブを押して、手順2に戻ります。
- 6 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

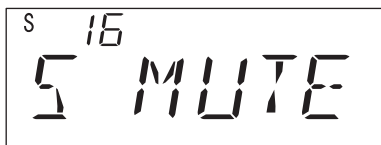
#### メモ:

手順3にて、スキップマークが付けられたメモリが無いときは、[CLEAR] は表示されません。

### スキャン・ミュート中のミュートを解除する

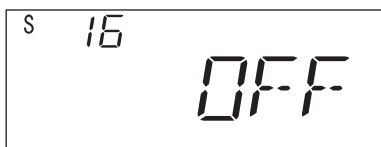
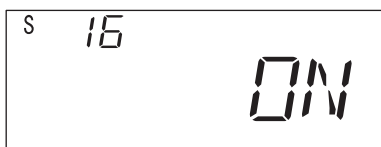
初期状態では、スキャンやサーチ中にミュートされます（音声は消されます）。この設定を解除することができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 16 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[OFF] を選びます。

- OFF を選ぶと、ミュートは解除されます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

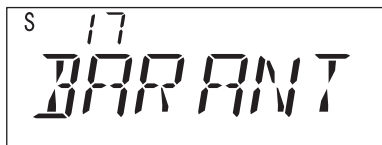
# 設定を変更するには

## 内蔵バーアンテナを使う

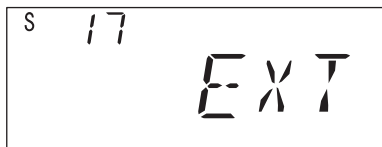
本機は、AMや短波放送(100kHz～5MHz)を受信するために内蔵バーアンテナを使います。この設定を使って、内蔵バーアンテナを使うように設定できます。

初期状態ではバーアンテナが設定されています。

- 1 設定を変更するために、FUNCキーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号17にします。



- 3 FUNCキーを押しながらダイヤルノブを回して、[BAR]または[EXT]を選びます。
  - 内蔵バーアンテナを使うには、[BAR]を選びます。
  - 付属アンテナを使うには、[EXT]を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブかV/Mキーを押します。

### メモ:

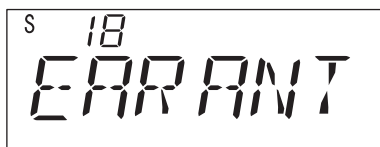
アンテナが正しく設定されていないと受信感度を低下させます。

## イヤホンアンテナを使う

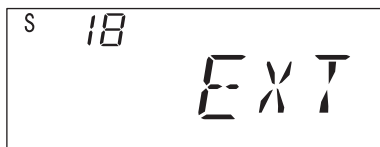
この設定を使って、イヤホンをアンテナとして使うように設定できます。この設定はすべての周波数帯で使えます。

初期状態は「EXT」になっています。

- 1 設定を変更するために、FUNCキーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号18にします。



- 3 FUNCキーを押しながらダイヤルノブを回して、[EARANT]または[EXT]を選びます。
  - イヤホンアンテナを使うには、[EARANT]を選びます。
  - 付属アンテナを使うには、[EXT]を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブかV/Mキーを押します。

### メモ:

イヤホンアンテナが設定されているときは、本機にイヤホンを接続してください。イヤホンが接続されていないと受信感度を低下させます。

## 設定を変更するには

### FM モード時に音声を自動的に大きくする

この設定を使うと、FMモードで周波数ステップが12.5kHzのときに音声を自動的に6dB大きくします。

- 1 設定を変更するために、FUNCキーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号19にします。



- 3 FUNCキーを押しながらダイヤルノブを回して、[ON]を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブかV/Mキーを押します。

**メモ:**  
この設定は、FMモードのみ有効です。

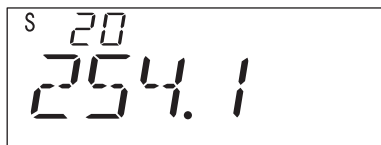
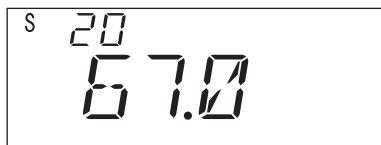
### トーン周波数を設定する

この設定を使って、50種類のトーン周波数の中から1つを選ぶことができます。

- 1 設定を変更するために、FUNCキーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号20にします。



- 3 FUNCキーを押しながらダイヤルノブを回して、トーン周波数を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブかV/Mキーを押します。

**メモ:**  
トーン周波数については、76ページの表を参照してください。

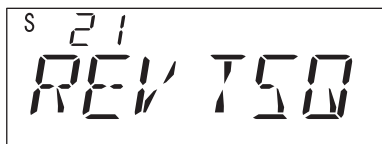


# 設定を変更するには

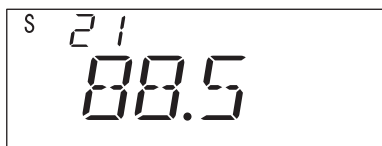
## 逆トーン周波数を設定する

この設定を使って、逆トーン周波数を選ぶことができます。音声が出ていないときにトーンの乗った電波を出しノイズを消し、音声が出ているときにはトーンを乗せずに電波を出す無線方式があります。逆トーン周波数とは、この無線方式に対応するためのものです。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 21 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、逆トーン周波数を選びます。



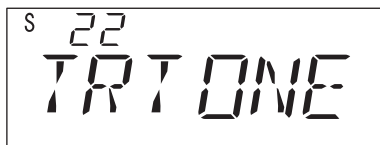
- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### メモ:

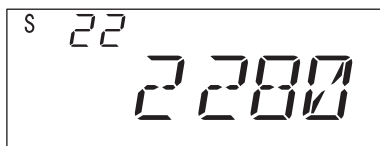
トーン周波数については、76 ページの表を参照してください。

## 空線トーン周波数を設定する

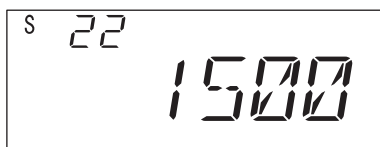
- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 22 にします。



- 3 FUNC キーを押します。
  - 周波数表示に変わります。



- 4 FUNC を押しながらダイヤルノブを回し、空線周波数を変更します。
  - ここで設定した周波数は、FUNC キーを押しながら MODE キーを押して呼び出した無線鉄道受信で設定した時のトーン周波数です。



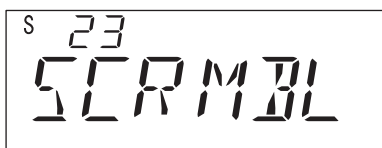
- 空線トーン周波数は、300Hz ~ 3000Hz より 50Hz 間隔で設定できません。
- 5 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

## 設定を変更するには

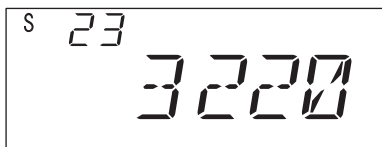
### 秘話通話のキャリア周波数を設定する

この設定を使って、秘話通話（スクランブル）のキャリア（搬送波）周波数を選ぶことができます。キャリア周波数を選ぶことで、秘話通話をより明瞭に聞くことができます。キャリア周波数は 3200Hz～3500Hz の間を 20Hz ステップにて変更可能です。（合計 16 波）

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 23 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、キャリア周波数を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

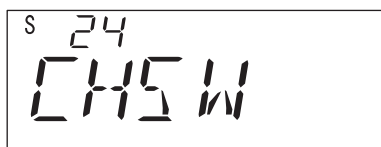
#### メモ：

トーン周波数については、76 ページの表を参照してください。

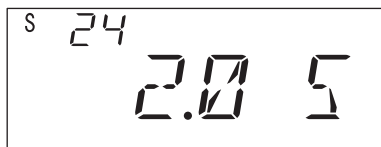
### 表示の内容を自動的に変更する

この設定を使って、設定した時間が過ぎると音量やスケルチ値から表示を自動的に変更するようにできます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 24 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、設定する時間を選びます。
  - 設定時間は、次のように選ぶことができます。  
0.5 秒、1 秒、2 秒、3 秒、4 秒、5 秒、OFF



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

#### メモ：

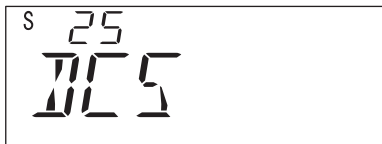
手順 3 にて、[OFF] を選ぶと自動的に表示は変わりません。

# 設定を変更するには

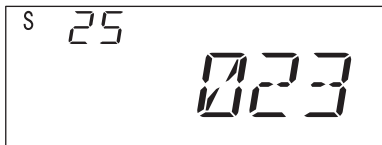
## DCS コードを設定する

この設定を使って、104 種類の DCS (Digital Code Squelch) コードの中から1つを選ぶことができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 25 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、DCS コードを選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

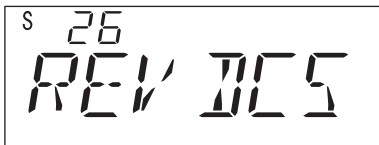
### メモ:

DCS コードについては、76 ページの表を参照してください。

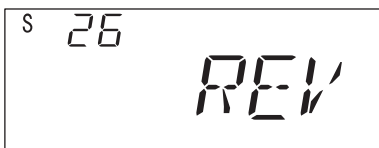
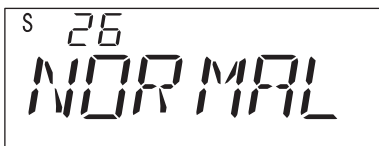
## DCS コードの位相を設定する

この設定を使って、DCS コードの位相を反転させることができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 26 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、DCS コードの位相を選びます。
  - [NORMAL] を選ぶと、位相は反転されません。
  - [REV] を選ぶと、位相は反転されます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### メモ:

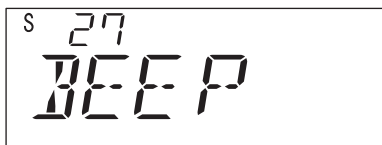
DCS コードの位相が反転されていても、マークは出ません。したがって、DCS コードの位相を確認するには、上記手順にて位相を確認してください

## 設定を変更するには

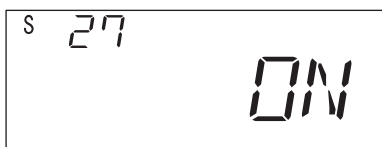
### ビーブ音を消去する

この設定を使って、キーを押したときなどに出るビーブ音を消すことができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 27 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[OFF] を選びます。

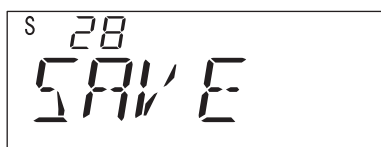


- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### バッテリーセーブ時間を設定する

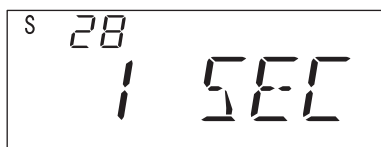
この設定を使って、バッテリーのセーブ時間を設定することができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 28 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、バッテリーセーブ時間を選びます。

- バッテリーセーブ時間は、次のように選ぶことができます。  
1 秒、3 秒、4 秒、5 秒、7 秒、9 秒、OFF



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

#### メモ:

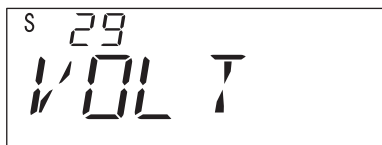
手順 3 にて、[OFF] を選ぶとバッテリーセーブは動きません。

# 設定を変更するには

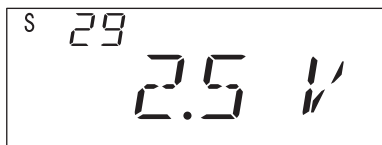
## バッテリーの電圧を表示する

この設定を使って、バッテリーの電圧を表示することができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 29 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、バッテリー電圧を表示させます。



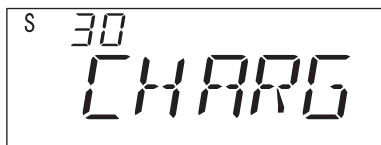
- 4 ダイヤルノブを押して、手順 2 に戻ります。
- 5 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

## ニッケル水素電池を充電する

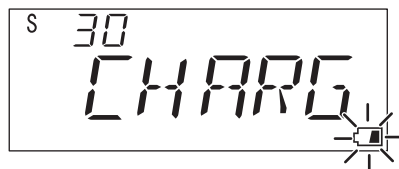
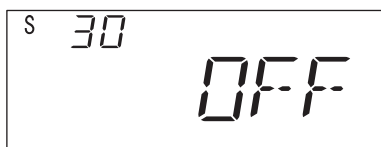
この設定を使って、付属のニッケル水素電池の充電を設定することができます。

**△ 注意：**  
付属以外の他の電池にこの設定は使わないでください。

- 1 AC アダプター AA-mini または DC アダプター DC-mini を接続します。
- 2 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 3 ダイヤルノブを回して、設定番号 30 にします。

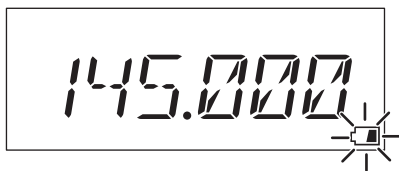


- 4 FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを回して、[CHARG] を設定します。



## 設定を変更するには

- 5 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。



- ( ) が点滅し、充電が開始されます。

- 6 PWR キーを 2 秒以上押し電源を切ると、[CHARG] が表示されます。



- [CHARG] が表示され、( ) が点滅します。

- 7 AC アダプター AA-mini または DC アダプター DC-mini を接続します。

- AA-mini または DC-mini の接続方法については、16 ページまたは 21 ページをご覧ください。

### △ 注意:

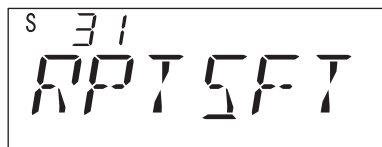
- 充電開始から 20 時間経過したら、AA-mini または DC-mini を外します。
- 安全のために、充電開始から 24 時間経過後に充電は終了します。
- 手順 5 にて、ニッケル水素電池が入ってなくても [CHARG] が表示されます。したがって、付属のニッケル水素電池が本機に入っているか確かめてください。
- 電池が入っていないときや、電池が使い切られているときに、本機に AA-mini または DC-mini を差し込むと電源がはいることがあります。この動作は不具合ではありません。

## リピータのシフトを設定する

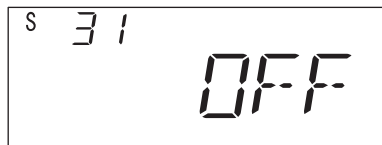
リピータを使った通信では、受信周波数と送信周波数がちがっています。この周波数の違いを自動的に設定し、送信・受信ともに聞くことができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。

- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 31 にします。



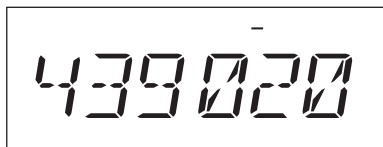
- 3 FUNC を押しながらダイヤルノブを回し、[RPT] を選びます。



- [RPT] を選ぶと、リピータシフトが設定されます。
- [RPT] を設定すると、430MHz 帯及び 1.2GHz 帯のリピータ周波数でマイナス表示が出ます。

## 設定を変更するには

- 4 VFOに戻るのには、V/M 又はダイヤルノブを押します。



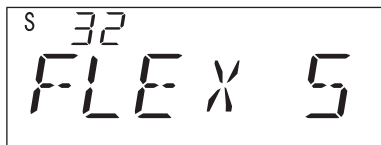
### メモ:

- FUNC を押しながら MODE キーを 2 秒以上押すとマイナスが点滅し、周波数をシフトできます。
- 解除するのは、もう一度 FUNC を押しながら MODE キーを 2 秒以上押します。
- 430MHz 帯のリピータ周波数は、439.000 ~ 439.995MHz、シフト周波数は、-5MHz です。
- 1.2GHz 帯のリピータ周波数は、1290.000 ~ 1292.995MHz、シフト周波数は、-20MHz です。

## 周波数ステップを補正する

本機の周波数ステップは、周波数帯に合わせて自動的に変わりますが、更に自動的に周波数ステップの補正も行います。この設定を使って、この機能を解除することができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 32 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[OFF] を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

### メモ:

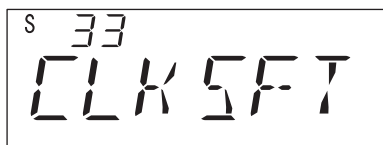
6.25Hz と 12.5Hz の周波数ステップを除いて、[OFF] を選ぶと周波数ステップの補正は行われません。

## 設定を変更するには

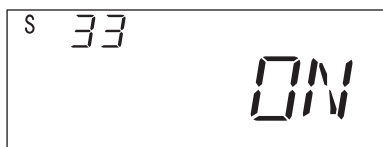
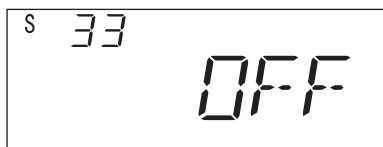
### 内蔵マイクロプロセッサの クロック周波数をシフトする

この設定を使って、内蔵マイクロプロセッサのクロック周波数が受信に影響をあたえているときに、その周波数をシフトすることができます。

- 1 設定を変更するために、FUNC キーを押しながら、ダイヤルノブを押します。
- 2 ダイヤルノブを回して、設定番号 33 にします。



- 3 FUNC キーを押しながらダイヤルノブを回して、[ON] を選びます。



- 4 元の表示に戻るには、ダイヤルノブか V/M キーを押します。

#### メモ:

この設定を [ON] にしても、周波数を変更したり電源を切ると設定は [OFF] に戻ります。



## ご参考に

### ラジオ用プリセット周波数リスト

メモリ番号	初期周波数	周波数範囲	備考
r-0	1.6200 AM	0.531 ~ 1.620MHz	AM ラジオ
r-1	80.00 WFM	76.10 ~ 89.900MHz	FM ラジオ
r-2	TV 1CH WFM	TV 1ch ~ TV 62ch	TV 音声
r-3	6.055 AM	3.000 ~ 11.995MHz	短波ラジオ
r-4	TR-1 FM	TR-1 ~ TR-12	鉄道周波数
r-5	SPD/PAT	変更不可	速度取締 / カーロケーター

「放送局の受信を行う」(45 ページ) を参照してください。

### 盗聴器スキャン用周波数リスト

26.0950	139.4000	143.7800	320.6750	396.4300	398.4550	399.5750	418.5650
27.0000	139.4500	143.8500	321.1350	396.4400	398.4600	399.5900	428.6350
27.1450	139.6000	143.8800	339.0300	396.6050	398.6000	399.6050	441.1150
32.0000	139.7000	143.9100	339.2500	396.8200	398.6050	399.6150	442.8000
34.4500	139.9000	143.9400	339.4500	397.2400	398.6400	399.6400	442.9000
36.6650	139.9400	143.9700	350.1250	397.2500	398.6450	399.6500	444.1150
75.6000	139.9600	149.0000	361.8200	397.5650	398.6500	399.7500	444.8850
76.0000	139.9750	149.4500	361.8250	398.0100	398.9500	399.9100	445.6650
105.8500	139.9800	149.5050	365.0500	398.0300	399.0000	399.900	600.5000
110.1500	140.0000	149.8950	367.4000	398.0500	399.0250	400.0000	
124.0900	140.0500	153.3500	368.8000	398.0650	399.0300	406.5200	
134.0000	140.4500	154.0000	380.4250	398.1100	399.2375	407.2100	
134.1600	140.5000	154.5850	380.6875	398.2150	399.2500	407.9050	
134.9000	141.0000	298.9800	389.6050	398.3050	399.4300	410.1100	
135.3650	142.9000	299.3200	390.6400	398.3100	399.4500	410.9700	
136.6000	143.2050	320.2350	395.7500	398.4500	399.4550	411.8350	

「盗聴器用の周波数をスキャンする」(50 ページ) を参照してください。  
周波数の変更、追加はできません。

## プリセットメモリ周波数

プリセット番号	初期周波数	備考
P00	1.6200 AM	AM ラジオ
P01	6.055 AM	短波ラジオ
P02	51.00 FM	アマチュア無線
P03	82.500 WFM	FM ラジオ
P04	128.800 AM	航空無線
P05	156.800 FM	マリーン無線
P06	145.00 FM	アマチュア無線
P07	370.00 FM	情報
P08	433.00 FM	アマチュア無線
P09	903.5125 FM	パーソナル無線
P10	1295.00 FM	アマチュア無線
P11	TV 1CH	TV 音声
P12	MEM980	ユーザ設定メモリ 980 ~ 999

P12 のユーザ設定メモリについては、「表示されている周波数をメモリするには」(39 ページ)を参照してください。  
 「プリセットを使う」(45 ページ)を参照してください。

## 鉄道無線周波数

メモリチャンネル	表示	周波数	メモリチャンネル	表示	周波数
750	TR-1	352.5375	760	TR-6	352.600
751	TR-1 T	336.0375	761	TR-6 T	336.1000
752	TR-2	352.550	762	TR-7	352.6125
753	TR-2 T	336.0500	763	TR-7 T	336.11250
754	TR-3	352.5625	764	TR-8	352.6250
755	TR-3 T	336.0625	765	TR-8 T	336.1250
756	TR-4	352.5750	766	TR-9	352.5375
757	TR-4 T	336.0750	767	TR-10	352.5375
758	TR-5	352.5875	768	TR-11	352.5375
759	TR-5 T	336.0875	769	TR-12	352.5375

※ TR-9 ~ TR-12 の周波数は、TR-1 と同じにプリセットされていますので、希望の周波数に書き換えてください。  
 表示の名前は変更することができます。  
 「メモリに名前をつける」(42 ページ)を参照してください。

# ご参考に

## 短波放送局

表示	メモリ チャンネル	周波数 (MHz)	表示	メモリ チャンネル	周波数 (MHz)	表示	メモリ チャンネル	周波数 (MHz)	表示	メモリ チャンネル	周波数 (MHz)
VOA	800	6.030	ITALY	842	6.060	DENMAR	910	9.590	INDIA	942	6.045
	801	6.160		843	7.175		911	9.985		943	9.595
	802	9.760		844	9.515		912	13.800		944	11.620
	803	11.930		845	17.710		913	15.735		945	15.020
CANADA	805	5.995	BELGIU	848	5.985	NORWAY	916	7.485	CHINA	948	7.190
	806	7.235		849	9.925		917	9.590		949	5.250
	807	9.735		850	11.780		918	9.985		950	9.855
	808	11.705		851	13.740		919	13.800		951	11.685
PORTUG	816	9.780	NEDERL	853	5.955	SWEDEN	921	6.065	KOREA	952	5.975
	817	11.960		854	6.020		922	9.490		953	7.275
	818	15.555		855	9.895		923	13.625		954	9.570
	819	21.655		856	11.655		924	17.505		955	13.670
SPAIN	821	7.270	LUXEMB	858	6.090	FINLAN	926	6.120	JAPAN	956	6.155
	822	9.520		—	—		927	9.630		957	7.200
	823	11.920		—	—		928	11.755		958	9.750
	824	15.585		—	—		929	9.795		959	11.850
BBC	832	6.195	WELLE	900	3.955	RUSSIA	932	5.940	AUSTRA	960	5.995
	833	9.410		901	6.075		933	5.920		961	9.580
	834	12.095		902	9.545		934	7.205		962	9.660
	835	15.310		903	9.735		935	12.030		963	12.080
FRANCE	837	6.045	SWISS	905	3.985	ISRAEL	937	9.435	—	—	—
	838	9.790		906	6.165		938	11.585		—	—
	839	11.670		907	9.885		939	15.615		—	—
	840	15.525		908	15.220		940	17.545		—	—

「メモリについて」(38 ページ)、「メモリを呼び出すには」(39 ページ)を参照してください。

## トーン周波数 (CTCSS)

トーン周波数 (Hz)									
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	171.3	186.2	203.5	229.1
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	159.8	173.8	189.9	206.5	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	162.2	177.3	192.8	210.7	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	165.5	179.9	196.6	218.1	250.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	167.9	183.5	199.5	225.7	254.1

「トーンスケルチを使う」(46 ページ) を参照してください。

## DCS コード

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

「DCS を使う」(47 ページ) を参照してください。

## ご参考に

### サーチバンドメモリリスト

メモリアドレス	下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	備考	メモリアドレス	下限周波数 (MHz)	上限周波数 (MHz)	備考
L00	54.000	72.060	防災無線	L12	458.250	459.500	タクシー 3
L01	118.000	141.975	航空無線	L13	466.050	467.375	防災移動系
L02	154.450	154.610	簡易無線	L14	466.350	466.550	消防署活系
L03	156.025	162.025	マリーン無線	L15	465.0375	465.150	簡易無線
L04	225.000	382.700	航空無線 2/ 他	L16	468.550	468.850	簡易無線
L05	348.5625	348.775	新簡易無線	L17	797.125	809.750	ラジオマイク (A/B型)
L06	358.525	358.9375	マリンフォン	L18	850.0125	859.9875	MCA 無線
L07	322.025	322.500	ラジオマイク(C型)	L19	903.0125	904.9875	パーソナル無線
L08	373.750	411.025	道路公団等	L20	144.000	146.000	アマチュア無線
L09	422.050	422.300	特定小電力	L21	430.000	440.000	アマチュア無線
L10	450.013	451.500	タクシー 1	L22	1260.000	1299.995	アマチュア無線
L11	453.300	453.350	タクシー 2	L--	*	*	

\* この周波数は「リミットリンクサーチ」(58 ページ) により変わってきます。

「サーチバンドメモリを変更するには」(36 ページ) を参照してください。

### 2VFO ワッチメモリ周波数リスト

2VFO メモリ番号	周波数 (MHz)	モード	2VFO メモリ番号	周波数 (MHz)	モード
A00	10.0000	AM	A05	1000.0000	FM
b00	100.0000	WFM	b05	1100.0000	FM
A01	200.0000	WFM	A06	1200.0000	FM
b01	300.0000	AM	b06	1299.9950	FM
A02	400.0000	FM	A07	145.0000	FM
b02	500.0000	WFM	b07	433.0000	FM
A03	600.0000	WFM	A08	433.0000	FM
b03	700.0000	WFM	b08	1295.0000	FM
A04	800.0000	FM	A--	2VFO ワッチ **	
b04	902.0000	FM	b--		

\*\* この周波数は「2VFO ワッチ」(32 ページ) により変わってきます。

「2VFO ワッチを行うには」(32 ページ)、「2VFO ワッチ受信用メモリを使って 2VFO ワッチを行うには」(33 ページ) を参照してください。

# ご参考に

## 設定番号リスト

設定番号	設定メニュー	機能	初期設定値	ページ
00		周波数ステップの設定	<b>AUTO</b> (AUTO)	P. 53
01		ファスト周波数ステップの設定	<b>IM</b> (IM)	P. 53
02		ランプ機能の設定	<b>AUTO</b> (AUTO)	P. 54
03		タイマー機能の設定	<b>OFT</b> (OFT)	P. 54
04		Sメーター感度の設定	<b>NORMAL</b> (NORMAL)	P. 55
05		Sメーターブザーの設定	<b>OFF</b> (OFF)	P. 56
06		カーロケーター機能の設定 ([CARLOR]表示にてこの機能はオンです)	<b>CARLOR</b> (CARLOR)	P. 56
07		スキャン・サーチ停止時間の設定	<b>5SEC</b> (5 SEC)	P. 57
08		サーチの動作設定	<b>VFO</b> (VFO)	P. 57
09		スキャンの動作設定	<b>ALL</b> (ALL)	P. 58
10		リミットリンクサーチのリンク先設定	<b>LTLNK0</b> (LTLNK0)	P. 58

## ご参考に

設定番号	設定メニュー	機能	初期設定値	ページ
11		バンクリンクスキャンのメモリバンク設定	<b>BKL NK0</b> (BKLNK0)	P. 59
12		リミットリンクサーチの上限・下限の周波数確認	—	P. 60
13		指定したメモリバンク内の全メモリ消去	—	P. 60
14		VFO スキップメモリマークの消去	—	P. 61
15		メモリスキップマークの消去	—	P. 62
16		スキャン・サーチ中のミュート機能解除	<b>ON</b> (ON)	P. 62
17		内蔵バーアンテナの設定	<b>BAR</b> (BAR)	P. 63
18		イヤホンアンテナの設定	<b>EXT</b> (EXT)	P. 63
19		FM モード (周波数ステップ 12.5kHz) 時に自動で音声を大きくする設定	<b>OFF</b> (OFF)	P. 64
20		トーンスケルチの周波数設定	<b>88.5</b> (88.5)	P. 64
21		逆トーンスケルチ機能の設定	<b>88.5</b> (88.5)	P. 65
22		空線トーン周波数の設定	<b>2280</b> (2280)	P. 65

## ご参考に

設定番号	設定メニュー	機能	初期設定値	ページ
23	<sup>S</sup> 23 SCRM BL	秘話通話のキャリア周波数設定	3300 (3300)	P.66
24	<sup>S</sup> 24 CHSW	表示部の自動切り換え設定	OFF (OFF)	P.66
25	<sup>S</sup> 25 DCS	デジタルコードスケルチのコード設定	023 (023)	P.67
26	<sup>S</sup> 26 REV DCS	デジタルコードスケルチの位相反転設定	NORMAL (NORMAL)	P.67
27	<sup>S</sup> 27 BEEP	ビープ音のオン・オフ設定	ON (ON)	P.68
28	<sup>S</sup> 28 SAVE	バッテリーセーブ時間の設定	1SEC (1 SEC)	P.68
29	<sup>S</sup> 29 VOLT	バッテリー電圧の表示設定	—	P.69
30	<sup>S</sup> 30 CHARG	ニッケル水素電池の充電機能設定	OFF (OFF)	P.69
31	<sup>S</sup> 31 RPT SFT	リピーターシフト機能の設定	OFF (OFF)	P.70
32	<sup>S</sup> 32 FLEX S	周波数ステップの補正設定	ON (ON)	P.71
33	<sup>S</sup> 33 CLK SFT	内蔵マイクロプロセッサのクロック周波数シフト設定	OFF (OFF)	P.72



## ご参考に

### 故障とお考えになる前に

現象	原因	対処
電源が入らない	電池が使い切られている	新しい電池と交換する
		電池を充電する
	電池の極性が間違っ入っている	電池を正しい極性で入れなおす
	PWR キーを押す時間が短い	PWR キーを2秒以上押す
受信しない	アンテナが正しく接続されていない	アンテナを正しく接続する
	周波数が合っていない	周波数を正しく合わせる
	設定したアンテナが合っていない	設定番号の17と18にて、アンテナを正しく設定する
	アッテネーターが設定されている	アッテネーターを解除する
音声がでない	音量の設定が小さ過ぎる	音量を上げる
	周波数が合っていない	周波数を正しく合わせる
	受信モードが合っていない	受信モードを正しく合わせる
	スケルチの値が大き過ぎる	スケルチの値をスレッシュホールド付近に合わせる
	トーンスケルチの周波数が合っていない	トーンスケルチの周波数を正しく合わせる
	デジタルコードスケルチのコードが合っていない	デジタルコードスケルチのコードを正しく合わせる
音声が歪んでいる	周波数が合っていない	周波数を正しく合わせる
	受信モードが合っていない	受信モードを正しく合わせる
ノイズが出る	スケルチの値が小さ過ぎる	スケルチの値をスレッシュホールド付近に合わせる
サーチが始まらない	スケルチの値が小さ過ぎる	スケルチの値をスレッシュホールド付近に合わせる
特定の周波数がサーチされない	サーチスキップが設定されている	VFO スキップメモリマークを消去する
スキャンが始まらない	スケルチの値が小さ過ぎる	スケルチの値をスレッシュホールド付近に合わせる
キーを受け付けない	キーロックが設定されている	キーロック機能を解除する

# ご参考に

## 仕様

受信範囲	100kHz ~ 1299.995MHz
受信方式	AM、NFM：トリプルスーパーヘテロダイン方式 WFM：ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信モード	AM、WFM、NFM
中間周波数帯幅	AM/NFM：15kHz、WFM：220kHz
メモリチャンネル数	1000 (10バンクメモリ×100チャンネル)
スキャン速度	8ステップ/秒
スキャンチャンネル数	100
プライオリティチャンネル数	1
スキップチャンネル数	100
受信感度	AM (10dB S/N) .....0.2 ~ 5MHz 1.3 $\mu$ V 5 ~ 160MHz 0.6 $\mu$ V 160 ~ 370MHz 0.6 $\mu$ V 370 ~ 520MHz 0.6 $\mu$ V 520 ~ 1300MHz 0.7 $\mu$ V FM (12dB SINAD) ..... 5 ~ 160MHz 0.2 $\mu$ V 160 ~ 370MHz 0.2 $\mu$ V 370 ~ 520MHz 0.28 $\mu$ V 520 ~ 1300MHz 0.35 $\mu$ V WFM (12dB SINAD) ..... 5 ~ 160 MHz 0.9 $\mu$ V 160 ~ 370MHz 0.8 $\mu$ V 370 ~ 520MHz 1 $\mu$ V 520 ~ 1300MHz 1 $\mu$ V
中間周波数	243.95 MHz、21.7 MHz、450kHz
周波数ステップ	5、6.25、8.33*、9*、10、12.5、15、20、25、30、50、100kHz (* 周波数帯により変化)
受信選択度	AM/FM：15kHz / -6dB 以上 WFM：110 kHz / -6 dB 以上
副次的に発する電波等の限度	-54dBm 以下
周波数安定度	$\pm$ 2.5ppm (TCXO)
低周波出力	100 mW、(10% 歪み、8 $\Omega$ 負荷時)
イヤフォン端子	3.5mm ジャック (モノラル)
アンテナ接続端子	SMA (50 $\Omega$ )
電池	単 3 形アルカリ電池、付属ニッケル水素電池×2
電池寿命	約 22 時間 (通常受信時)
外部電源入力	6V DC、500 mA
消費電流	約 110mA (受信状態にて低周波出力 50mW) 20mA (待ち受け時、バッテリーセーブ 1:4) 65mA (待ち受け時、バッテリーセーブ無し)
動作保証温度範囲	-10° C ~ +50° C
外形寸法 (突起部含まず)	60 (W) × 95 (H) × 24 (D) mm
質量	210g (アンテナ・バッテリー含む)

仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。





***Authority On Radio communications***

© 2008 AOR, LTD.

Printed in Japan.

**株式会社エーオーアール**

〒 111-0055 東京都台東区三筋 2-6-4

TEL 03-3865-1681 FAX 03-3862-9927

URL <http://www.aorja.com/index-j.html>

e-mail [post@aorja.com](mailto:post@aorja.com)

00M63AC851110